

165
149

徽陽

徽陽學院出版

(非賣品)

048964-000-3

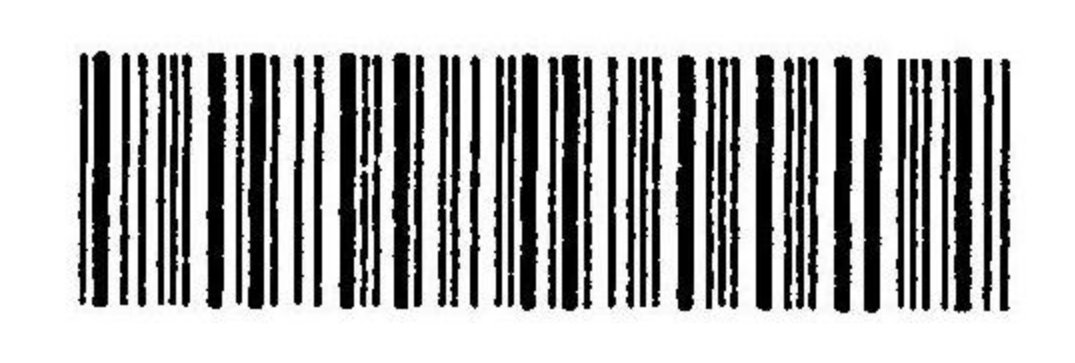
特30-427

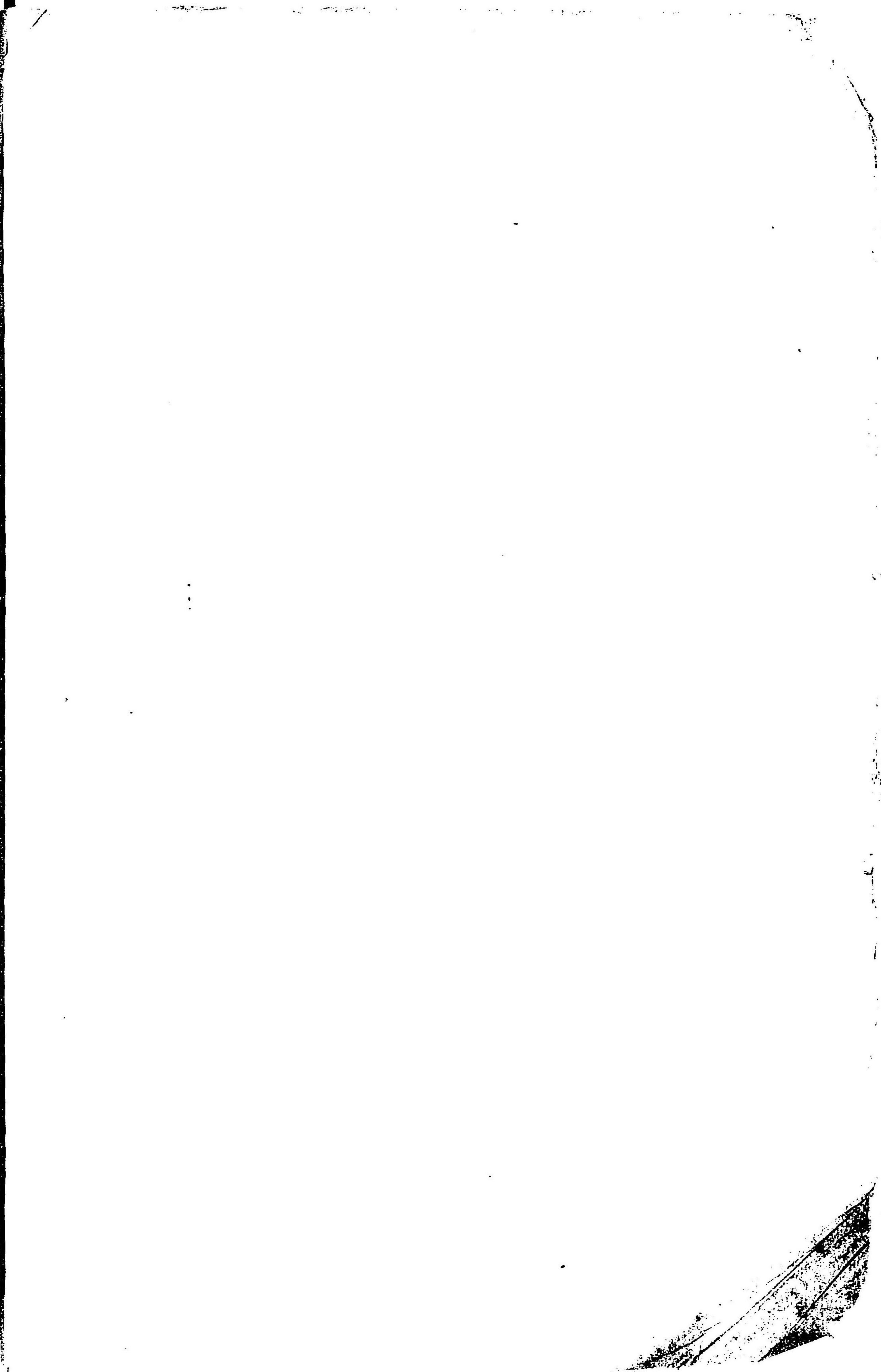
徽陽

徽陽學院

M27

BEJ-0795





緒言

此の小冊子は本院第一回卒業式の際、京都同志社教授大島正健先生に請ふたる演説の草稿、及び其他の者の二三論文、演説草稿、祝辞等を收め、附するに本院校舎圖面一葉、及び二三の記事を以てしたるものにして、之を編輯するもの、もと唯だ紀念に資するの微意に過ぎざれども、若し自然大方の有志諸君が、本院へ寄せらるゝ、同情を厚ぶする一助ともなるとあらんには、本院の光榮、編者の面目之に過ぎざるなり

明治廿七年七月廿日

編者識

題辭ニ就テ

昔伯夷兄弟ハ周武王ノ行ヲ媿トシテ周粟ヲ食ハズ首陽山ニ陰レ薇ヲ採リ以テ食シ遂ニ飢テ死ス因テ歌ヲ作り其意ヲ陳ブ曰彼ノ西山ニ登リ薇ヲ採ル暴ヲ以テ暴ニ易フ其非ヲ知ラズ神農虞夏ハ忽チ没ス我ハ變ク適歸セシフ吁嗟徂カン命ノ衰ヘタルト遂ニ首陽山ニ餓死ス此ニ由リ之ヲ觀レバ其清潔ナル實ニ慕フ可シ世ノ青年タル者伯夷兄弟ノ清潔ヲ守リ苟モ其義ニ非ザレバ一芥モ人ニ受ケズ其道ニ非ザレバ一歩モ人ニ曲ケズ儻々正々ノ心ヲ以テ常ニ國家ノ難ニ臨ズハ苟モ免カレズ身ヲ犠牲ニ供シ若シ其道ニ非ザレバ西山探薇ノ志操ヲ固守シ其君ニ非ザレバ仕ヘズ其民ニ非ザレバ使ハズ其身ヲ潔キニ歸シ貪夫ヲシテ廉ニ儒夫ヲシテ立シメ以テ名教ニ益セント欲ス故ニ伯夷兄弟ノ清潔ヲ慕ヒ飯令身ハ餓死スト雖モ畏レズ此レ薇陽ノ名アル所以ニシテ伯夷首陽探薇ノ精神ニ背カズ常ニ志操ヲ堅固ニシテ文ト行トヲ慎ミ文ニ臨ミ忌マズ誠義公道ニ照シ身ヲ顧ズ己ノ思想ヲ吐露實行シ國家ノ萬分ノ一ニ供セントスルハ我輩師弟ノ微衷ナリ因テ聊カ鄙言ヲ陳ベ以テ題辭ノ意ヲ表スト云フ

左の一篇は大崎正健先生演説の大意にして寄稿を請ふて得たるものなり

教育の目的を論じ併せて卒業生諸氏に告辞を呈す

余不肖の身を以て薇陽學院諸士の優遇を蒙り本日卒業式に列するを得るは身の幸榮と言はざるを得ず
學校卒業の時期ハ學生諸君の生涯にとりて大變轉の時期也諸君多年の苦學は今日あるを期せしに由るなるべく今や身に榮華と稱ひ業を卒り此校を去らんとするに當り過去追想の念慮現在別離の感情未來處世の想像等交々諸君の心中に湧き起り此大祝日に際し或は却て悲意相半するをなすといふべからず諸君の本校を思ふ其情の切實なる固まり余の言を俟たざるべし余は今諸君の首途を祝するに當り聊か教育の目的を論じて諸君及び本校諸氏の參考に供するも當に無益の事に非ざるべし

教育の二字は支那語なるか本邦語なるか其原を詳かにせずと雖も英語にては之をエヂューケイションといひ

動詞のエヂュークスは即ち外面に引き出すの義にてエヂューケイションある語は人々心内の能力を開發せしむるの意なり此定義に由れば教育の目的は但々人々の特性を發達せしむるにあるが如しと雖も普通教育の主眼とする所は只單に是れのみならず外より助援を與へ心内の諸能をして共に并行しなるべく圓滿に發達せしむるにあるあり

普通教育に關する本邦官立諸學校の執り來れる方針を察するに専ら諸能圓滿の開発に意を注ぎ全級總体の發達に着目して一個人の特性に重きを置かず模型を設けて青年子弟を其中に鑄込まんと云其弊器械的の訓練に流れ易く過多なる學科課程細密なる試験採点法等は時よ或は就學の生徒を誤らしむるとなき非ず然れども全級大體を取り扱ふに至りては外に適當の法なきが如く實に事の止むを得ざるに出でたるなれば官立學校の教育法敢て非難すべきに非ず此類の教育も一方に向ては亦大に効果あるが故吾人の之に對し寧ろ感謝の意を表せざるを得ず

私立學校は然らず教員生徒互に相親しみ自由に問ひ自由
由に答へ教員は能く生徒の性質を熟知するが故特性開
發の教育を施すに於ては最も便宜の地位にありとす然
れども自由を尊ぶの余り學校の規律を重んぜず加ふる
に資金の欠乏に原由し諸事多くは整頓せざるなり是れ
がため亂雜粗野の惡風を生じ當局者をして統御の術よ
苦しましむるに至ると往々これあり學校は單に知識傳
授の場所に非ずして身体精神共に訓練の場所なるを記
願せざるべからず道德訓練の必要は固より言ふまでも
なければ措いて論ぜず余は一般の私立學校に向て大に
望む所あり即ち科學思想の鍛練是れなり

常に無形の空理のみを以て人に教ふるときは兎角誇張
の惡風を生ぜしむる恐あり已れの未だ解し得ざる大家
の語を引照し筆を舞はし辯を振ひ滔々時世を痛論する
は青年の氣象として敢て深く答ひべきに非ざれど其上
お立ちて監督する者注意を怠る時は容易に挽回すべか
らざる惡弊に陥らしむるとあり常に誇大の思想に養は
るゝ者は人の説に惑はされ世の風潮に化せられ易く身

し同情同感諸事相共にし辛苦經營の下に購ひ得たる幸
福は之を他の大厦高樓の中に住し單に書籍に由て買ひ
得たる知識に比すれば其價の差異果して幾何ぞや諸君
は他年世上の苦樂に遭遇せる後諸君の習得せる學課の
知識は或は忘却し或は用を爲さざるとあらん然れども
良教師より印象を受けたる感化の力は永く腦頭に存し
て忘ること能はず屢々現はる來りて諸君が活動の原動
力となるとあるべし

尙此外學校の與ふる恩惠として忘るべからざるものあ
り同窓學友の交誼是れなり諸君他日世間に出で事を起
さんとするに際し己れの利益を捨てて正義の道を歩み
終始志を同する親友を得んとせば其の誠に寥々たる
を歎するに至るとあるべし而して良友として最も頼む
に足るべきは各能く其性質を熟知し互に相容れ互に相
宥す青年時代に交り得たる同窓の學友に如く者なから
ん

諸君は今一家族の組織に類する薇陽學院を出て懇篤な
る教員諸氏の誘導により各其特性と長所とを發達し是

は大理想を抱けるが如く誤想するも知らず識らず迂遠
に流れ實際世界に出づるに當り始めて已れを知りて身
一物を得る所なきを歎じ或は人を恨みて其の世に容
れられざるを慨き遂に失望に陥る者あり是れ學校卒業
者の内々往々見る所なり此弊害を矯正せんとせば宜し
く精細綿密の思想を修養せしむべし精細綿密の思想を
修養せしめんとせば其根據を事實の上に置ける實驗の
學問即ち科學の思想を鍛練せしむるに如くはなし私立
學校は動もすれば規律の整頓せざる恐あれば人々の品
性を養ふに道德の教育に次ぎ科學の訓練を以てすれば
大に其短處を補ふに足るべし余は薇陽學院の諸士に向
て此處に注意せられんとを望んで止まず

余は以上教育に關する愚見を陳述せり是れより歩を轉
じ卒業生諸君に向て聊か勸告の辭を呈すべし
余は諸君が貧家に育ちし子弟の如く甚だ無禮の言なり
と雖も此の尙創業お際する稍不整頓の觀ある學校より
出でられしを寧ろ同情を表して賀せざるを得ず諸君は
教員諸氏を以て父母となし同窓の學友を以て兄弟とな

れより其運用を世間に向て試みんとす諸君將來の行爲
如何は諸君のホームなる學校の面目に關すると甚だ大
なり世上の風雲變化窮りなし全校の諸氏は今日諸君の
幸榮を祝し諸君のために暗涙に咽びて別離を惜しむの
情を表す諸君若し逆遇に陥り苦戰の時に遭はば遠く諸
君が故山の學校を顧み其良師良友を想ひ心を勵まして
勇を鼓すべし行け諸君岡山城畔山河の好風景又諸君の
發足を祝し諸君前途の成效を待ちつゝあるなり

教育を論じて薇陽學院に及ぶ

寺 島 信 夫

月照の歌に

美かき得て國の寶となる者は

人のこころのたまにそありける

古來我國に傳はる寶とは何であるかと問ふ者あらは吾
人は直に答へて八阪瓊の勾玉、八咫の鏡、叢雲の劍以上
の三種であると申しました、抑諸君何か故にこの三
種の神器は我國唯一の寶であつて以來長く傳て居て亦

長く吾人は之を將來に傳へん事を望むか或人は之に答へてこれは祖先の遺訓に依て之を守ると申しましよう亦或人はこの三神器は世界無比なる寶物ゆへ吾人は之を世々に傳ると申しましよう、私は以上の説に余程賛成である即ち或家には彼の昔羅生門に於て渡邊の綱か手に掛たる鬼がべて居りし虎の皮の犢鼻褌か寶であるといひ或家には彼の昔大江山に於て源の頼光か手に掛りたる酒呑童子か用ひたりし人頭の杯か寶であるといひ或家には大蛇の鱗か寶である或家には馬の角か寶である或は何に或は何ふと何の意味も亦く價值もなく唯人の好奇心に投じて持て囃さるゝ如き寶で荷くもこの三神器はないといふ事は明瞭なる事實であります、然らば何が故に吾人は祖先の遺訓に依て之を守らねばならぬか亦何が故にこの三神器は世界に無比なる寶物であるか亦何が故に吾人の祖先は之を唯一の寶として世々に傳ふる事を遺訓したかこれ吾人か必ず知らなければならぬ事である其れは決して別の事でない唯この三神器とは吾人の心に形取られたる者である頼襄は三神器の意義を解いて鏡は明にして玉は仁及び信、劍は即ち武をあらはす者であると申しましたが私もこの解釋を賛成する者である、例令の彼の日本武の尊かこの劍を

一箇の心の働である故に若しこれを心の働といへば決して異名ある筈でない故に吾人が神器を傳ふることは鏡の様に明にして劍の如き武にあつて玉の如く仁及び信なる心を傳はるといふ事である神器の遺訓を守るとは良心の導に従ふといふ事である故に昔皇祖天照太神か皇孫瓊々杵の尊にこの三神器を傳へ給ひし時謂給ひし「これに仕ふる尙我も仕ふる如くせよ然らば國家の隆なる天壤と極なかるべし」との御詔も爾等は爾等の良心の導に従ふ事尙我に従ふ如くせよ、然らば國家の隆なる天地と極りあかるべしと謂給ひし者である、然して南北朝の頭尊氏の力を盡し智を傾けこの神器を得んと試みしも全く國民の心を北朝に傾けしめて南朝を忘れしめんと謀りし者である、然して後の世に於て吾等史を讀む者が茲に至て涙を流す所以の者は亦正に南朝に三神器あつて國民の多數が之を守らず反て之を捨て良心に於て恥つ可き事を恥ぢざる所以に外ならないのであります實に吾國開國以來幾千年の間皇統連綿として上下相和し万民擊壤鼓腹太平の歌を歌ふたも全く上に三神器のあるありて下に良心の導に従ふ人民か有たからである、實に月照か「みかき得て國の寶となる者の人の心の玉にそありける」と歌ふたのも誠に適切なる

持して野蠻不毛の地に踏み入りたまふて粗暴恣惡常に吾か良民を害する東夷を征伐して天下を泰山の安に置きたまひし事といひ亦彼の仁徳天皇がこの玉を持して仁政を行ひ給ひ實に人足り家給し刑措く事二十年初めに當りては民の炊煙最と少かりしも終には「高き屋に登りて見れば煙たつ民の竈はにきはひにけり」といふ程寛に民を憐みたまひし事といひ亦彼の醍醐天皇かこの鏡に照して人民の寒苦を知られ親ら御衣を寒夜お脱せたまひ「朕深宮にあつて屏幄相圍むも猶寒威の犯すを覺ゆ況や貧民衣褐なき者をや」と實に人民のために同情の涙を流したまひし事といひ其の他我日本の舞臺、槍舞臺お現はれ出て各勇壯活潑なる手腕を振ひ精細緻密なる腦力を用ひ幾多の事業をなし終て今や優絶快絶花笑ひ島嶼つる平和なる天地に眠る處の英勇豪傑忠臣孝子の傳記を繕く時に於て吾人は確か三神器とは良心を意味する者なる事を發見す如何と云ふればこの三神器の教ふる仁といひ信といひ武といひ明といふも宛も太陽の光線が水蒸氣を通して七色に別るゝ如くこれ等は唯、心の分輝である故に彼の多くの川が大海に落つる前には色々異なる名あきと海となつては別に異なる名あき如く種々様々の英勇豪傑の働も詮し上ればこれた

名吟であつて吾人の良心は磨かなければならぬ、磨きたる吾人の良心は國の寶であると歌ふたのであります、吾人か毎に口にをる日本魂もこの磨れたる良心に別ならぬであります即ち本居宣長か「敷島の心和心を入問は、旭に香ふ山櫻花」と歌ひましたがさてこの旭日にははふ山櫻花の花にこの良心を磨かねばならぬ平野次郎國臣か「方あり智恵ありとても何かせんたのまん者はこゝろなりけり」と歌ふたも何より彼より心かたのもしひと讀んだので實に良心は國の寶であるが其良心を磨く事が大切である即ちこれを磨ねば所謂寶の持ち腐れて何の益にならぬ其の良心を磨く事を智育徳育と申します

以上、私は國の寶は良心である、良心は國の寶である、國の寶とは良心の外に何にもなき如く申しましたが決して良心のみが國の寶でない即ち吾人の身体も國の寶である、月照か「みかき得て國の寶となる者は人の心の玉にそありける」と歌て國の寶は良心のみといふたのは少し見界が狭い、亦國臣か「方あり智恵ありとても何かせんたのまん者はこゝろなりけり」と歌ひても見界が狭い即ち吾人の身体と心との關係は有り觸れたる言葉で以て謂は、宛も車の両輪の如く鳥の両翼の如く

両者其の一を欲く可らざる者で言葉を変ゆれば吾人の良心は太陽の光線にして吾人の身体は水蒸氣であるこの光線がこの水蒸氣を通して初めて茲に美麗なる七色の虹をあらはす如く吾人の良心が吾人の身体を働いて初めて茲に完全なる働をなす者である、決して磨きたる良心ありとも健全なる身体あけよは其の良心は何の價値もなき者です即ち楠正行か四條駿に赴く前龍顔に咫尺せし時天皇最と別を惜みたまふて今度の戦利をくとも是非生長らへて歸り來よと命ひしも如意輪堂の壁上には「歸らじと兼て思へば梓弓無き數に射る名をそ留むる」と書き置て空しく四條駿の煙と共に消へ失んとは、これ全く正行の身体虚弱なりし故ある事は既に諸君の御承知の事で御座りましよう、實に身体の壯健なるは一種の國の寶である、國臣や月照は維新の際に於て衣は肝に至り袖腕に至る冬の寒さも何かあらん夏の暑も何かあらんてう躰格のよき壯士のをを見て然して之に反して天下の人々か天下の大勢を知らず勤王の何物たるを知らず尊王の何者たるを知らざるを見て慷慨のあまり右の歌をうたひし者である故に國臣をして今日にあらしめ人文弱に流るゝを見せしめば、或は月照をして今日にあらしめて之に洗禮を受けさせる曉

な時分に老翁老嫗か人間と猿とよく似て居るを見て猿は人間より毛か三本足らんけなど語りしを思ひ出して或は人間は猿より進化したる者であるか知らんといふ考を起さるゝ諸君かあるかも知りませんか我等の先祖は八幡太郎義家である、我等は平重盛の子孫である藤原鎌足の末流である鼻を高く立て居る私供が斯る事を聞ては實に面目ない事は是非とも人間の先祖は猿であるとなる以上は唯毛三本位の區別なく何卒私供は猿より遙に進歩したる者になまたいといふ考が起りますがこそは諸君必ず御同感の事と存します亦私供の先祖か伊田の花園に於て實に花笑ひ鳥囀つる平和な天地に遊ひし者なりと聞て私供か今の様に落隨したるを見れば實に残念であるが其残念といふ考につれて何卒今私供は基どの完全無敵なる昔に歸りたいといふ考へが一度起りますこれ亦諸君御同感であらうと思ひます諸君私は今諸君と共に人間の先祖は果して誰であるか基督教の所謂「アダム」「イブ」であるか或は進化論者の所謂猿であるか否やを研究致しませんか兎に角或は昔の様に完全無敵なる地位に立ち歸りたい或は今少し猿より進化したいといふ何れにてもよしいが今の地位より尙進みたいといふ希望を以て吾人か居る事の明瞭

には必そ躰育の必要を稱へたでしよう、即ち身躰を練磨する事を躰育と申します

扱て諸君、私は今迄良心を磨く事即ち智育、德育と、身躰を磨く事即ち躰育の事について諸君の前に述べましたがこれは宛も諸君と共に酸素を研究し水素を研究して未だ水を研究せざる者で御座ります今や歩を進めて教育といふは何であることを論究したい、基督教の歴史家は口を開いて或は筆を取りて大昔、多分アダム、イブの時でしょう神は人間を己に象りて完全無敵に造りたまひしか一旦、己の命令を守らざりしを以て神は人を奈落の底に落したまひしと故に吾人は昔の完全無敵なりし事を去て今日の如く額に汗して働き打木鳥の様に毎日々々土地をつゝいて食物を得ねばならぬ、亦今少し活て居りたい死にともない大音擧て泣ても叫んでも是非この躰は英雄豪傑愚者凡夫の差別なく土に歸らなければならぬ有様になつたと申しま

なる事實でありましよう其の明瞭なりといふ一寸吾人か眼を擧て現今世界の有様を一見すれば直に知る、即ち一方に「カンジス」川を望むて之には生る神様が御座ると思ふて己の最愛の一人をすらすら之を投して尊敬する印度人ありと思はる一方にはこの川の水を引て自由自在に之を使ひ或は之を米を精せ或は之に糸を紡せなぞする英國人ある事を諸君御承知しよう、亦一方に山を尊て之を拜する人ありと思はる一方にこの山を己の大藏省の如く思ひ金を掘出して何んと思はざる人々のある事を諸君御承知しよう、夫より甚だしきは雷です實に雷とさへ聞けば直に臍を隠して蚊屋に飛ひ込み線香を立て桑原々々と叫ぶ者ありと思はる一方に雷さんを使ふ事宛も奴隸を使ふ如くこれお手紙を持たせて一瞬の中に往復させ之に車を引せて千里の道を走らす人あるではありませんか諸君この二種の人々がこの水に對してこの山に對してこの雷に對して懐く處の思想の高底淺深を見ても確に吾人は進歩しつゝある者である進歩すれば必ず其の目的即ち到着点ある筈なり故に吾人は其の到着点即ち理想に向て日一日、一月と進歩して居るといふ事は明瞭なる事實でありましよう、即ち其の理想に向て吾人を安全に導く者を教育

と申します言を變ゆれば吾人人間は如何にして生活を營むべきやと謂ふ問題を解く事か即ち教育で御座りませぬ然して吾人は一箇の生存者、即ち一箇の Being としては身体と精神の二ツを以て居ります故この二ツを理想に近づけねばならぬ即ち狐が人を模造する時に或は頭に破れ草靴を戴き或は全身に池の藻を被て尾を隠す如く吾人も或は心を其の理想に近づけ身体を其の理想に近づけて漸々猿と御縁を断たなければなりません其の心を理想に近くる事を徳育、智育と申します身体を理想に近くる事を躰育と申します即ち吾人の躰と吾人の精神を或る理想に導く事を教育と申します然してこれは教育を或る一方より考へたる者であるが吾人一步進んで他方面より之を考へて見たい即ち人間の發達上より之を考へて見たい故に之をなす前に吾人は人間一生涯の少しばかりを抽り行て見ましよう、

諸君、吾人人間が母の胎内より生れ出れば直に直覺の依て乳房を求めて乳を吸ひ初むる事なるが先づこれが人間一生涯の初めで御座ります固より其の時に於て彼の詩聖「テニン」が「イン、メモリアム」に於て

„The baby new to the earth and sky”
What time his tender palm is prest

面當なる次第で御座りますがこれも身から出た錆で三十六計逃るにしかすとて遁きんとしても遁る事の出來ない譯で一旦人間と名稱して生れて來れば是非ともこれだけの義務は負なければならぬ其の源に溯ればこれらの義務は完全く自立しよう自分を保護しようといふ英語の所謂 Self preservation といふ思想より起たる者である故に吾人は是非共以上の義務を負ねばならぬ扱て如何にせば以上の義務を完する事が出来るかこの問題と解く事を名づけて教育と申します諸君、私は以上お於て自分を保護しよう、自立しようといふ考より吾人か數多の義務を負ふ様になつてまいりました其の義務を完せしめる事を教育と申しましたが其れは自立して思想の實行を受働的に論じる者でありますが今自働的より自立して事を考へると益々教育といふ事を明にする事が出来る、即ち吾人は如何に自立をなし居りしや亦如何にして自立をなすべき乎を考へるならば尙教育の意義を明にする事が出来る、今其の問題を考へる時に吾人は吾人を飾る事に依て自立を營んで居た、亦吾人は吾人を飾る事に依て自立を營まねばならぬ事を見出します即ち彼のアイヌ人は口の周圍に入墨をなし亦は熊の頭を腰の邊に釣下て自分の威權をあらはし

Against the circle of the breast,
It has never thought that this is I”
But he grows he gathers much,
And learns the use of ‘I’ and ‘me’
And finds I am not what I see
And other than the things I touch”

と歌ひし如くこの時分には何の考も無く宛も蠶が桑の葉を食ふ如く只無心に母の乳を吸ひ母の胎に眠る事なるが乞食の子も三年たてば三ツといふ様に漸々自分といふ謂ふ事が知れる様になつてまゐります扱て自分といふ事が知れて參りますと其の次に自立即ち自ら自分を保護しようといふ念慮が起てまいります自分を保す扱て色々様々と雜多なる社會に立て自分を保護しようといふ致しますと直に自分の微力なる事を推る、これよりして母の愛を知り一族の睦を作り一社會の團體を作る様になつて參ります然して只今御互にある様な境遇を造り出す次第で御座りますさて御互の様な境遇になりませといや自分に對する義務とか家族に對する義務とか社會に對する義務とか國家に對する義務とか色々様々の義務が附帶して參りました實に一方より謂へ

自分の腕力の強をあらはして自立を營みました亦亞弗利加の土人が貝殻や鳥の毛を以て躰を飾る事やら亦吾人か腕輪、耳輪、指輪をはめる事やら其他美麗なる帽子を被り光澤ある絹布を纏ふ事及び吾人か最も受ける詩學、音學、舞踏、其他百般の技藝を學ぶ事はこれ全く吾人か自立せんために吾人を飾る方法である、或人はこれらの事は決して吾人を飾る者にあらずして唯其の必要に應じて或は日光の害を拒き或は寒暑を凌ぐためであるといふ事を除くが眞阪口の邊に入墨をなしたりとて日光の害を拒く事は出來ませぬ熊の頭を幾個ぶらさげても寒暑を凌ぐ事は出來ませぬ貝殻や鳥の毛を身体に二ツ二ツ附けたりとて何の役にもたちませぬ唯飾るといふ事を除くは成程帽子を被り衣服を着る事は或点に於ては論者のいはる通り或は日光の害を拒き寒暑を凌ぐためでしょう然し其ればかりではありませぬ若し日光の害を拒き寒暑を凌ぐためなれば頭の毛を長く伸して身体に枯草或は木の葉を附て置けは澤山ではありませぬ然るに今日の婦人社會、紳士社會に於て彼處の令嬢は孔雀の毛にて織たる洋服を着てをりしと聞けば此處のレデーは鶴の毛を織て衣服をこしらへる亦彼處の紳士は大形の寶石入の時計を持

て居ると謂へば此處の「ゼンツルマン」は「ダイヤモンド」入りの指輪を飾ると謂ふ様に宛も春の百花か櫻に負けじ牡丹に劣らじと各美を争ひ艶を競ふ如き時に於てこれは日光を拒くためだ寒暑を凌ぐためだ必要より起たる者であるといふても誰れか之を承知する者がありませんか成程必要より起たのでしよう、即ち自立せんために自分を飾らうといふ必要より起たのでしよう、其のみならず吾人の衣服はよく人の品性をつける者である彼の團十郎右團治の輩にして或時は由良の助となり或時は御輕となり亦或時は御半となり長右工門たらしむる者は或は衣裳を以て或は白粉を以て或は假髪を以て彼等を飾る所以でしよう、これ等はアイヌ人が口の周邊に入墨をなし腰のまはりに熊の頭を釣掛け亞弗利加の土人が貝殻や鳥の毛を以て自分を飾るのと五十歩百歩では御座りませんか、嘗て北條時頼が僧衣を着して或家に行きし事ありしが其の家には之を時頼と思はずして追歸したりと實に衣服は良く吾人を飾る者で御座ります、扱て其の飾るといふ事が私の所謂教育で御座りませと即ち吾人が吾人の自立をなさんためよ吾人を飾る事が教育で御座りませと茲に至り諸君教育とは吾人をして或る理想に向て完全よ自立せしむるために吾

扱て諸君、これらの教育社會にたちて吾か愛する所の位置より謂へば未だ社會に知られざる誠に小き薇陽々々したる薇陽學院は果して如何なる有様をあらわして居るかこれを諸君が考へられん事は私の切望する所である、今私は遠慮なく包ます隠さず明に薇陽學院の門戸を開放して之を諸君に紹介して些少諸君に同胞の涙を得んと思ふ、諸君、我か愛する所の薇陽學院は余か前に述べたる所の完全なる教育を施す所である、若し現今、其の十全の極に達して居らずとせずも早晚其の域に達す可き種を有しをる者である、成程我が薇陽學院には正何位、勳何等といふ難有教師一人もない然り一人もない然れども吾か校には學生と寢食を共にし神を恐れ正義を愛する幾名の教師がある、之を彼の晨には倫理を講し脩身の道を説きながら夕に花に戯れ蝶に戯るゝ人々に較べては諸君果して如何成程吾が薇陽學院には某大博士、或は某學士でう金箔付きの教師一人もない然り一人もない然れども吾か校には自由に議論を戦はし其の知れる處を知れりとし其の不知處を知らずとせず謙遜擧げたる幾名の教師がある之を彼の我こそは何處の學校の教師である我よあつては知らざる處なしといふ様な顔をして其の實は學生の詰問に避易えて

人を飾る者で御座ります

故に教育ある人は必ず自立する者です不羈獨立なる者です故に教育ある人々を以て成立し國家及び社會は必ず自立する者である故に其の社會其の國家にして獨立自治の社會及び國家たらんと欲せば、必ず教育普及を謀らねばならぬ若し教育にして普及せんか我國にあつては完全なる立憲政體の國となり野にあつては投票買集其の跡を絶ち朝にあつては藩閥の弊亦まさし消へ失せる者である、

故に吾國に於て維新の革命終るや否や朝野の人士大に茲に見る處ありて力を教育の一点に集められ今日にあつては上大學校高等中學、下小學校幼稚園に至るまで幾万の教育所を見るに至りし事は誠に吾人の喜ぶ所である、然しながら或人の句に「武藏野に草は品々多けれど摘菜にすれば扱も少なし」と謂ひし如く以上余か論したる完全なる教育でう目鏡を以て我邦現今の教育社會を見學校の有様を見る時にこの歌の感事か勃々として吾人の心裡に浮ひ來る事である、誠に完全なる學校の少きは其の數の多きを喜ぶと共に悲む可く憂ふ可き事であるこれ等の点は諸君並に吾人が力を盡し智を傾けて改革せねばならぬ

胡麻化し去る處の教師に比べては其れ諸君果して如何、成程我が薇陽學院に巍峨天に聳ゆる家屋なく廣茫千人を訓練するお足る運動場あるおしこれ只吾人學生が終天の遺憾となす處である、然れども其体育に至ては朝夕各自に熱心實行する處である之を試験点に關係するを以ていや／＼勉むる躰操に比しては優るありども劣らざる思ふ尙吾が學校の主義は基督教主義にして自由教育開發的にして器械的、注入的ならず以上は學校の表面なるが裏面に廻て如何に生徒が學校を愛するかを諸君の前に述べたい諸君、大抵何處の學校にても學校の器物を粗末に取揃ひ戸障子も樂書するが一般私立學校の弊風で亦一種學生の名譽となつてをるが其故に學校より器具修繕費或は校費を徴收するも無理からぬ事あるが吾人にあつては然らず嘗て化學を學び居りし際、一日之を試験せんと思ひえも基より學校に器械あるにあらす藥品あるにあらざれば或人の或る藥品を携へ來り或人は或る器械を持ち來り各々持寄の藥品器械もて不完全なる化學試験をなしまえた亦數學の時に白墨のつきた事がありまえたが生徒は彼處此處より殆ど持つ事か出來ざる程の小さな殘片を集め來りて其の時間を過しました事がありました其他去年までは一箇の時

Extracts from a Composition on Love and Beauty founded on Supernatural Spirituality

By. K. MAEGAWA.

.....When we examine carefully this immense universe we will find that there are two great moving powers, which are always stirring us with wondrous influence and we can become great men only as we are moved by them. What are they?

I think they are love and beauty:

.....It is very difficult for us to have friends among our fellow creatures, but it is very easy to have such friends in the world of nature because they will come when we desire them to come to us and because they will have when we wish to be alone....

.....We know very well that we cannot exist long in this world if we have not a consoler and saviour. As I take it God is the true consoler of men. I am always longing for this eminent beauty and magnanimous love as my natural disposition, as the hungry man desires meat for food....God's appearance was like a beautiful flower and God's thought was like a transparent jewel clear and pure, therefore able to console us under these miserable circumstances.

.....Thus the love and beauty of God may be the harmonizing power by which this world is supported. I believe positively as a fact that this perfect love and beauty are fostered by the hand of Christ and are shown by him certainly and clearly, and I think love and beauty in mankind from the foundation are gift of Christ, he introducing them into this world....Love and beauty are true companions....We cannot look however imperfectly, upon Christ without gaining something from him.

...If we look faithfully at him, he will show many things to us.

計がありませんから私供は非常に不便を感じて居りました。が之を得るに如何したか別にお爲方がない故に生徒教師より若干の寄附を出して漸く今學校にあつて吾人に忠實なる時計を買ひました。其の他斯の如き類の話は澤山ありませぬが今一々記憶えて居りませぬが諸君これ等の事は學生が喜で學校を攻撃する材料では御座ませぬか尙これのみならず丁度この前の土曜日であつたが吾が學校は網の濱より東山に轉宅致しました。が其の時の如きは生徒は各、汗水を流して器物を運びました。諸君、下駄一足提げて行く事すら好まざる學生がこの所爲は只面白半分の遊と思ひたもふか、尙これのみならず今日諸君を吾が廣大なる講堂に招て和氣靨たる處にこの卒業式を行はんと日夜此のみ望みし希望は既にくゞ水泡に歸し今日諸君とこの處お相見ゆるに至りし事はこの園の草も木も共に涙を流す思ひあつて旭川の水も今日に限り逆に流る想がある。

校とこの生徒を如何に思はる、乎「美がき得て國の寶となる者は人の心のたまにそありける」この玉を有す吾人青年とこれを磨く所のこの學校に對して諸君の感事は夫果して如何、天照太神の遺訓、三神器の教に教へられたる諸君が二十世紀の繼續者、諸君の事業を受け次ぐ可くこの青年と其之を教育するこの學校に對する諸君の感情其れ果て如何ぞや吾人は切に之を聞かん事を望む若し其を諸君が一臂の力をこの學校とこの生徒の上に盡さる、あらば、豈に夫を姫路城中、一片の乳母石としてのみ残らんや豈に夫れ一片の乳母が石としてのみ残らんや

杜子鳥血は鳴く聲の月より外に聞く者ぞなし
諸君は吾人をしてこの杜子鳥たらしむるや否や



自尊ハ人類ニ於ケル天賦之大則也

湧川 幹

夫レ人此世ニ生ル必ス靈魂ト肉体ト有セザル者無シ而シテ苟モ靈肉ヲ有セバ天其各自ニ與フルニ他人ノ以テ一モ侵犯シ得可カラザル天權ヲ以テス亦愛ニ一國トシテ世界ニ並立ス必ズ治者被治者ヲ有セザルナシ而シテ苟モ斯ク一團結ヲ成セバ他國ノ以テ寸歩モ侵害シ能ハザルノ天法アリ斯ク一個人或ハ一國民ニ於ケル天然ノ權威ハ人類ノ力ヲ以テ如何トモ變革シ得可カラザル造物主ノ律法ナリ即チ神ノ特別ニ吾人々類ニ與ヘ給フタル天父ノ大權利也而シテ亦人々類ニ與ヘ給フタルフルニ各能力ヲ以テセリ之レ亦神ノ人類一般ニ於ケル特與ニシテ人其ノ能力ヲ受クルヤ個々長短アリテ或ハ美術家アリ或ハ商業家アリ或ハ政事家アリ亦一國ニ於ケルモ同シク各其天ヨリ授カル銘々特得ノ長所アリ彼ノ露人ガ腕力ニ於ケル獨人ガ思想力ニ於ケル佛人ガ美術ニ於ケル日本人ガ勤勉力ニ於ケル皆之レ個々特得ノ長技タリ斯ク一個人ニ於ケル或ハ一國民ニ於ケル長所ハ天各異ニ此ノ人類ニ下シ給フ所ノ權利ニシテ之レ又人意ヲ以テ寸分動シ得可カラザル天與也然ラハ即チ人類一個ニ於ケル或ハ一國民ニ於ケル天然ノ權力天與ノ能

賦ノ能力アリ之レヲ推究ス可キノ智力アルナリ然ルニ此教育ヲ以テ如何ニ禽獸ニ施セバトテ之レヲ受入ル可キノ能力ナキハ明々タル事實ニシテ三才ノ童子モ既ニ知得スル處ナリ然レドモ是レ恰モ魚鳥ハ人間ニ依リテ捕獲セラル者ナレバ此レハ人間ニ屬スル者ニシテ決シテ神ヨリ授カル者ニ在ラズト云フガ如キ論ニシテ甚シト云フ可キナリ予ハ是等ノ論者ニ對シ喋々徒辞ヲ要セサルナリ故ニ余ハ人類ニハ天賦ノ權力アルヲ信スルナリ然リ而シテ斯ノ如ク人間ノ權利及能力ハ天ヨリ受クル者ナレバ萬種ノ人法ヲシテ宜敷此ノ天法ニ則トラシザル可カラズ則トリテ而シテ後ニ完全ナル法律モ作り得可ク公平ナル賞罰モ成シ得可ク社會ノ平和モ來タシ得可キ也亦斯ク能力アレバヨソ教育モ成シ得ベク智力モ進歩シ得ベキナリ而シテ此教育ニ依リ今日ノ文明ヲ來シ今猶進化シツ、在ル所以ナリ然ラバ人類ハ此天父ノ特惠ニ對シ其人法ヲシテ悉ク此ノ天法ニ一致セシメザル可ラザル事及其ノ天能ヲ以テ益練磨セザル可ラサル一ハ之レ人間ノ神意ニ報スルノ一大義務也之レ即チ余ガ自尊ト唱フル所ノ者ハ此ノ二者ニシテ即チ一ハ以テ天然ノ權利ヲ主張スル事ニハ以テ自己ノ長所ヲ發現スル事也然ルニ人アリ此ノ精神ヲ以テ傲慢心ト同一

力ハ天ノ特ニ此世界ニ下シ給フタル尊嚴ニシテ犯ス可カラザル絶大ノ賜物ナリ即チ天賦ノ大則也然ラバ人間ハ此天則ニ則トラザル可カラザルハ之レ明白ナル事也然ルニ一種ノ人アリ其己レニ適利ナルヤ即チ辭ヲ爲シテ曰ク凡ソ人天賦ノ權ナシ何トナレハ權利ナルモノハ只政事上主治者ノ許容ニ依リテ成立ツモノナレバ也ト蓋シ是レ即チ世ニ制度法律ノ正否ヲ判ス可キノ標準ナキヲ論定シ善行モ無ク惡意モナク天下ノ人民ヲシテ脅盜セシムルノ立法モ盜人懲罰ノ法則モ同一ナリ亦天下ノ母タルモノヲシテ其ノ兒子ヲ殺害セシムルノ法令モ殺兒禁制ノ法則モ之レ亦同一ナリト斷定ス難シテ曰ク人類ノ能力タル決シテ天ヨリ授カルモノニ在ラズ其ノ才能ハ只人ノ教育ニ依リテ養成セラルモノニシテ其自個ニ於ケル天性ノ長所トシテハナク故ニ其社會ノ境遇ニ依リテ美術家トモナリ發明家トモナル者ニシテ人意ニ依リテ如何トモ變シ得可キ者ナレバ人類ニシテ若シ教育ナカランカ何ゾ禽獸ト一点ノ差違アラント然リ若シ人教育ナクバ殆ンド禽獸ニ近ク誠ニ無智蒙昧萬物ノ主宰タルノ名稱ハ附ス能ハザルヤモ知レズ然リト雖モ人類ハ教育ヲ施セバ之レヲ受入ル可キ天

視シ尤モ惡ム可キ不遜心トシテ之レヲ賤ム之レ大ナル謬見ナリ蓋シ傲慢心ナルモノハ己ガ天權ノ範圍ヲ見ルナク己ガ特能ノ有無ニ關セズ只慢然自己ヲ重ズル者ニシテ此ノ精神ヲ決シテ自己ヲ權威付クルニ在ラズ反ツテ人ヲシテ我レヲ侮ラシムル而已ノ方便ニシテ此心ヤ實ニ賤シム可キナリ厭フ可キナリ然リト雖モ余ノ所以ル自尊心ナル者ハ斯ノ如キ卑屈心ニハ非ラズ正義堂々天與ノ權利ヲ充ス者也神意ノ存スル所ニ從フ者也然ルニ亦一種人アリテ曰ク凡ソ人權利ヲ主張スルハ德義家ノ欲セザル所ナリ若シ他人ニシテ自己ガ權利内ニ侵入セバ宜敷之レニ退歩ス可シ自己ハ自己ノ正義ヲ盡セバ足ル也聖賢云ハズヤ恨ニ報ユルニ德ヲ以テスト他人若シ天理ニ悖レバ天之レヲ罰ス矣ト亦曰ク例へ自己ニ能所アリト雖モ之レヲ吹聴スルハ實ニ憐ム可キノ野卑心ナリ若シ自己ニ長所アレバ人之レヲ自ラ知ルニ任セヨ喋々之レヲ吹聴スルハ賢者ノ欲セザル所小人ノ所爲ナリト余ハ今之等二個ノ反對說ニ向テ一言ヲ述ベントス夫レ人類ニシテ若シ神ノ如ク完全ナル者ナルカ宜敷非難者ノ云フ如ク其權利ヲシテ天ニ任シテ可ナリ然リト雖モ人ハ斯ノ如ク完全ナル者ニ非ラズ故ニ若シ人自己ノ權利ヲ張ラサルカ他人愈々其權利限内ニ侵入シテ止

マル處ヲ知ラズ例へ被侵害者ニシテ之レヲ忍耐スルモ
 自己ハ自己ノ正義ヲ尽セバ足レリトシテ一モ之レニ抵
 抗セサルガ如キハ無責任ノ言ニシテ自己主義甚敷者ト
 云フ可シ之レ即チ天意ニ悖ル者ニシテ社會ノ平和ヲ欲
 セサル者也故ニ若シ愛ニ天權ヲ重セサルノ德義家アル
 カ之レ皮相的德義家ニシテ真正ノ德義家ニ在ラザルナ
 リ余ハ今聖賢ノ所謂恨ニ報ユルニ德ヲ以テス可シトノ
 教訓ニ就キ聊カ自説ヲ述ヘント欲スルモ或ハ其ノ主旨
 ヲ酌ム能ハサルカヲ恐レ愛ニ喋々セズト雖モ聖賢ノ意
 思恐ラクバ斯クノ如キ場合ニ在ラサルヲ信ス蓋シ神ノ
 意思タル萬民同胞ニシテ互ヒニ安心平和ヲ得セシメン
 トスルニ至テハ實ニ明々タリ然ルニ吾人々類ニシテ其
 ノ天權ヲ張ラサルカ強者愈々弱者ヲ侵害シ其ノ徵候甚
 敷ニ至テ始メテ之レヲ挽回セントスルモ反テ其ノ悲境
 ニ沈淪スルガ如キハ國家上治者被治者間ニ於テ屢見ル
 處ナリ斯ノ如ク強者弱壓ノ弊害ヲ醸スニ至ルハ嗚呼人
 類ニシテ何ゾ獸畜ノ所爲ニ異ナラン之レ即チ天權擴張
 ノ等閑ニ因縁スル者ニシテ天意ヲ蹂躪スル大不忠僕ト
 云ハズシテ何ゾヤ故ニ余ハ天權主張説ノ最モ必要ニシ
 テ寸時モ缺ク可カラザルヲ感ズルナリ
 然ラバ此ノ天與ノ能力ニシテ社會ヲ益セザル可カラザ

ルヤ亦疑ナシ而シテ此ノ社會ヲ益セント欲セバ宣敷之
 レヲ現出セシメサル可カラズ而シテ之レヲ現出セシメ
 ントセバ先ツ能所ヲ以テ自ラ重ンゼザル可カラズ然ル
 ニ難者ノ言ノ如ク此ノ現出ヲ以テ自然ニ委ヌルガ如キ
 否甚敷ハ其能所ヲ隱蔽スルガ如キ亦無責任ノ所爲ナラ
 ズヤ之レ神ノ特惠ヲ無視スルモノニシテ天ノ大不敬者
 ト曰ハズシテ何ゾヤ余ハ斯ク論シ來タレバ自尊心ナル
 者ハ社會ノ平和及進歩ヲ來スノ大要素ニシテ人類ニ於
 ケル天賦ノ大則タル亦疑ヒナキナリ余ハ之レヨリ進テ
 猶自尊ニ就キ聊カ卑見ヲ述ベ以テ益々其ノ必要ヲ固メ
 ント欲ス

夫レ社會成立ノ基本ナル者ハ實ニ此自然ノ權利ト大法
 アル而已苟モ個々ニ於ケル平和或ハ社會邦家ノ健全ヲ
 欲セバ必ラズ其ノ制度法律ヲシテ此ノ高大正義ナル天
 則ニ一致セシメサル可カラズ例ヘバ吾人ニシテ若シ一
 個ノ機關ヲ製セント欲セバ必ラズギヤ物ノ引力性膨脹性
 等理學上ノ法則ニ從ハサル可カラサル如ク又吾人身体
 ノ健全ヲ欲セバ必ラズ生理上ノ規法ニ服セサル可カラ
 サルナリ然リ而シテ若シ此ノ機關ニシテ軌轢運轉セサ
 ル時ハ吾人必ラズ其ノ理學上ノ法則ニ悖ル在ルヲ知ル
 ガ如ク苟モ社會ノ衰弊ト法律ノ害惡トヲ見バ速ニ其ノ

組織ニ於テ必ラズ此ノ正法ノ損スル所アルヲ知ル可キ
 ナリ彼ノ亞米利加獨立ノ撤文ノ如キハ只此ノ天賦ノ人
 權ヲ以テ正統ナラシメントス即チ其社會ノ衰弊ヲ認識
 シタルモノナリ其ノ文中ニ云ヘルアリ天ノ人ヲ生スル
 ヤ億兆皆同一轍ニシテ之レニ賦與スルニ亦動ス可カラ
 ザルノ權利ヲ以テスト即チ其權利トハ人ノ自ラ生命ヲ
 保チ自由ヲ求メ幸福ヲ祈ルノ類ニシテ他ヨリ之レヲ如
 何トモ成シ得可カラザル者也人間ニ政府ヲ立ツル所
 ノ者只此ノ權利ヲ固クスル爲ナリ弱者ヲ保護スルノ趣
 旨也政府タルモノ其ノ臣民ニ満足ヲ得セシメ初メテ權
 威アリト云フベキナリ若シ政府ニシテ此ノ趣旨ニ戻ル
 所ハ即チ之レヲ變革シテ更ニ其首旨ニ基キ人ノ安全幸
 福ヲ保ツ可キノ新政府ヲ立ツルヤ人民ノ權利ナリト其
 他佛蘭士國民會ノ發布ニ係ル有名ナル市民權利ノ布告
 中ニ掲カグルガ如ク亦近クバ現今我國條約改正論ノ如
 キ皆之レ同一眞理ヲ認ムル者ニシテ各其ノ天賦ノ權力
 ヲ挽回セントスル者也

不正ノ下ニ産シタル偏僻ナル習慣ノ配下ニ苦ム暗昧ナ
 ル社會ナリトス蓋シ是等ノ場合ニ於テ一直線ニ正義ノ
 途上ヲ去テ斯ノ天權ヲ保護シタル者ハ古來稀ニシテ誠
 ニ困難ナル者トス彼ノ革命ヲ以テ誇大ナル佛蘭士人民
 ノ如キ未ダ此ノ正義ヲ達シタルモノニハアラズ或ハ日
 本國家ノ維新以前ニ於ケル外交條約ノ如キ亦誠ニ然ル
 ヲ免レザル者ト云フ可シ斯ク眞理ノ一斑ヲ窺ヒ其ノ一
 部ヲ掬シ若シクハ其一部分ニ於テ定式ヲ幾度モ重履復
 行スルトハ萬人ノ能クスル所ナリ然リト雖モ其ノ全斑
 即チ人權ノ全キ者ヲ回復スル誠ニ難ヒ哉蓋シ之レ權利
 ヲ挽回セントスルノ人民ニシテ其ノ重履復行ヲ欲スル
 者ニアラズ蓋シ年來ノ習慣一時ノ激昂ニ驚カサレ斯ク
 セントスルモ亦止ムヲ得サルニ出ヅル者也 (中略)
 次ニ個々特得ノ天權即チ自己ガ長所ヲシテ自ラ重カラ
 シメント欲セバ先ツ自尊ナル所以ヲ知ラサル可カラズ
 夫レ自尊心ナル者ハ能ク人ヲシテ其責任ヲ帶バシムル
 者也若シ此自尊心ニシテ潜伏セシメンカ毫釐ノ責任ナ
 シ人責任ナクシテ如何ナル小事ト雖モ成就シ得可ケン
 ヤ其ノ名ハ能ク人ヲシテ自ラ重カラシムルモノニシテ
 己レ先ツ侮リテ而シテ後人之レヲ侮ルトハ之レ古人ノ
 金言ナリ薩長藩士維新ノ大業ヲ成ス亦一ニ此自尊心即

チ吾ハ長人タリ薩人タリトノ觀念ヲ重シタルニ依ル而已之レニ依リテ各藩士モ皆憚カリテ道ヲ讓リタルナリ或ハ又我封建時代ノ武士ノ如キ其名ヲ以テ自ラ重シトスルニ依リ彼ガ勇氣ヲ以テ其任ニ當ル所以ナリ凡ソ社會萬種ノ事業タル只此ノ自尊心ニ依リ動カサル、者ニシテ即チ社會ノ動脈ト云フモ亦過言ニ在ラザル也即チ今日物質上ノ文化ヲ見ルニ此精神ニ起因スル者ニシテ若シ之レヲ以テ無視シタルカ幾千年ヲ經過スルモ今日ノ文明ヲ來ス恐ラクバ能ハサリシナルベシ故ニ吾人社會ノ源流タル者ニシテ苟モ社會ノ平和ヲ欲シ萬種ノ進化ヲ望ミ神意ノ特惠ニ報ヒント欲セバ宜敷此ノ天賦ノ大法ヲ寸時モ等閑視ス可カラザルヤ明ナリ

答辭、告別、 荒木時二郎

縉紳貴女各位、清閑半日の日咎を消して駕を此場に托けらる、後進爲すなきの書生なり、淺識誇るなきの學童なり、すなはち、是等の爲めに、敢て至大の勞を取らる殊に海山數十里、大島正健先生遠來の勞を敢てせらる、生等の感鳴豈に稀少にして相濟むべき事ならんや、唯だに生等の幸榮たるのみならず、また我が薇陽學院の面目にてあるなり、未だ高く其頭角を擡げざる

て峻坂を登らんとするか如し、齋藤拙堂木曾川を降りて、記あり曰く、兩崖巒嶺一時皆動、當前所見、倏忽在後、唯見岸行山走、而不覺舟移、……視上流船併力挽上者、難易懸絶、と、蓋し人間誠に此の如きものあり、生等機を見るの明なく、勢を御するの力なし、風に向ふて走り、潮に激して赴く、故に或は碎柁破舟、事止まんも知るべからず、然かもく、高論之れを念頭に留めて記し、肺肝に刻して誦し、迷はんとする時之れによりて醒め、陥らんとする時、之れによりて覺り、背に益し、支に延び、造次顛沛、敢へて忘れんや、本來驚鈍、造父の六馬を走らすか如きこと始めよりあるなし、肅謝頓首、

余薇陽學院に入りてより年あり、性蒲柳弱質、屢々發行停止に遭ひ、一貫勤勉、大に勵む能はざりしも、年所數過、幸に今日あるに至り、僅かに其の一端を修めて退かんとす、顧みて教官各位に對し、恩荷少しとせんや、特ニ兩米國教師、薰陶誘掖の勞決して小ならざるなり、縦讀よりして横讀、眼爲めに屢々列を誤り、舌端正音を發せずして、抑揚度を失し、斷續体を混し、發して明かならざるなり、陳して通せざるなり、兩師の煩悶夫れ如何許ぞ、尋問軽く發せらる、而して知らざる

、未だ深く其の根底を占めざる、我薇陽學院の業己に此待遇を蒙むる、惶懼何んぞ堪へんや、且つ夫れ、寄するに祝規を以てせられ、囑するに教誨を以てせらる、感謝何んぞ禁せん、生等誠に講乏しく、才疎にして、未だ學の成りたるにあらず、業の遂げたるにあらず、豈に唯だに、成らざる、遂げざるのみならんや、誠に千萬微分の一にも値ひせざるなり、例へば堂に入らざるのみならず、門に到らざるなり、門に到らざるのみならず、之れをすら尙ほ隱約の間に認めざるなり、乃ち是等儕輩にして、俄かに賜ふに褒辭を以てせらる、至慚至愧、謝するに辭なきを覺ふなり、然れども其の属せられたる教誨に至りては、豈に拜して受けざらんや、至愚驚鈍、高論を全ふせざるは明かなりと雖も、蒲鞭一打、加へて走ることにて於て躊躇せんや、生等、未だ前途の畫策に意を用ひず、政事の理か、經濟の説か、神妙哲學の論か、そもく又、實業の策か、我と雖も尙ほ我を知るに由なし、蓋し人間萬事二天作五にして、成敗得喪多く相半ばせり、機を制し、勢を御し、順風滿帆に孕み、快潮輕柁を轉ず、天下の事其の易きを知りて其の難を知らざるなり、苟くも然らず、則ち大船を引て急湍を溯るか如く、巨岩を動かし

と爲すなり、平淡事理を談せらる、而して急々答へざるべからずと爲すなり、解を乞はんとす、而して訊問の体を爲さざるなり、理を説かんとす、而して急答師を煩はざるとはするなり、或は叮嚀にして過度、却て寓意あるか如く感せしめ、或は暴傲奴輩の辭を爲す、平談雜話のうち、難字を挾みて笑はしめ、高尙議論の處、俗語卑辭を介して体を失す、其他大過小誤數へ來らば、是れ日も足らざるなり、實に言々意を失して、語々義を誤るるあり、而して師と雖も、係解するに由なく、問意答意、相反し相逆して、遂に奇々抱腹に堪へざるものあり、俗話曰く、豐姫二人遇干途、甲卒然問曰、疇昔火災、係何坊乎、吾甚憂女兒家在近、乙答曰、勿憂々々、昨日米價下落、一斗一外也、甲謝曰、聞得安心、師弟相對して英語を談す、正さに此の如きものあるなり、

此間、日一日、月一月、諄々教へて倦まず、懇々曉して止まず、旨を開かんとし、盤を發かんとし、反覆にして反覆、周到にして周到、恩誼何んぞ忘却せん、感謝豈に少間にして止むべけんや。

廣瀬旭莊廉熟を發せんとするどき詩あり、其の一節曰く、初我來此中、新知幾誰某、俶儻多異才、規諍富益

友、有呼我爲兄、感其極謹厚、有呼我爲弟、喜其善導誘、と吾將さに同門諸君と別れんとす、旭莊の詩其の痒處を搔て痛快を感ずるものあり、暴慢漸もすれば禮を失し、不遜漸もすれば誼を紊り、幾たびか諸君に不快の情を起さしめたるものあらん、然かも導誘よろしきを蒙り、大事なくして過くるを得、規諍富益友の句、余深く胸懐に徹するを覺ふ、殊に不學馬槽を同ふするに足らずして教訓常に辱ふするを得、儼儼多異才の句、またく長く、記憶に刻せらるゝを覺ふ、

更らに追想回顧して快に堪へざるものあり、三五七八、或は十數、一室輪坐、邊幅を削り、崖岸を破り、放言して高論す、小禮拘せざるなど、細儀顧みざるなど、心直ちに心に通し、意直ちに意に通す、眞お一個の裸体的団体など、大人君子、乃はち彈指して厭ふべしなどなさんも、書生の真趣、自から此間に存するを覺ふ、歴史を談す、其の繕きたるの書は僅かに、一卷或は兩三巻に過ぎざるなり、然かも博覽傍搜、大家の如く標致す、文明の起原は如何、東洋の文明は如何にか経過せし、希臘夫れ如何にか發達昂進せし、羅馬の一統は何たる新文明を呼ひしぞ、破裂し來りて如何ある爲体を呈せしぞ、文明果して佛國を傳はりしか、英國に傳

る處誠お深きが如し、ア、言を休めよ、嬰兒東西を辨せず、呱呱乳を求む、哲人は乃ち其の天真愛すべきを謂ふにあらすや、小童齡七八、竹馬走り、紙鳶飛ぶ、世人真趣の箇中に存せるを悦ぶにあらすや、顧みて書生の天地、人事會つて知らず、世故會つて覺らず、空樓閣を造りて相誇を、枕頭一夢捕へて街ふ、淡泊瀟灑中寧ろ愛すべきの事あらすや、

更らに門を同ふする友よ、輕裝一羣、山背水畔の樂に至りては、軒冕尙ほ換ゆへからざるものあり、朝暾未だ上らず、曉殊に涼爽、此時に當り、巖岩を攀ち、榛莽を啓らさ、一步一端、相率ぬて登る、泝々流るゝ溪に遇ふ、魚貫又双列、嶺巔影重なる處に到る、簷居安坐、天地の章を大觀す、此の友と興に此の景を翫ぶ、愉の愉、快の快、眞に禁ずる能はざるものあり、若き夫を、月清きの夜、三々五々、清光を踏み、顧みて相歌ふ、箇中の天地、吾亦た畫裡の人、坡仙といふと雖とも之れに加ふるを得んや、坂谷朗廬曰く、兀然峙者、我登而賦焉、漾然而流者、我涉而記焉、悠哉々々、天壤之間、易此樂者蓋稀矣、此我所以有慕謝安石放情丘壑也、然安石每遊賞必以妓從、而余則一親友之外、頭上之孤笠、脚底之双鞋、千里飄然而已、然至一登一

はりしか、英國のクロムウェル騒動は、米洲の獨立義戰は、さては佛國大革命大破裂はなど、寂寥窮冬の如き腦漿を絞り來る、或はアレキサンダー、ナポレオン、シーザー、ハンニバル等の猛將を捕へ來りて翻弄一番し、或はカルビン、ルーテル、ウォルシー、ノックス等を上下して、宗教紛乱の跡を尋ぬ、若し夫れ、文學の範圍に入りては更らお聴くべきものあり、スペンサー、チョーサー時代より、降りてピクトリア現代の終局に到り、尙ほ米洲の文豪アービング、エマーソン、ロングフェロー、ホイットチアー等を混し來る、沙翁言へり、ミルトン語れり、ジョンソンは、ポーブはなど、引照し來ること雨の如く又霞の如し、殊に、カライル、マコーレーは、殆んど十八番の如く頻々として話頭に上り來るなど、而して其の實を究む、沙翁の作會つて繕かざるなり、ミルトンの詩會つて某を讀む、然かも引照したるものにあらざるなり、十九世紀二文豪の如きは、多く民友社の取次にか、り、其の他にも多く此類にかゝる、吁此の如し、應用の敏なること神の如く、看板の巧なること人技とも思はれず、其他、哲學經濟の理、理學化學の玄、動植百物の奧等、議論風生、談辨口を衝て來る、濫蓄する處高く、涵養す

涉、情景所觸、怡然而樂者、未曾不相宴合乎千歲、况親友非妓女之比、孤笠双鞋、有時勝管絃絲竹、則余之於遊、未必讓安石也、と余等更らに朗廬に超ゆるものあり、
山、長へに存し、水、流れて止まずと雖も其形は茲に在り、朋と我、東西に分れ、南北に離る、此山此水、焉んぞ余輩を想起せしむるものたらざらんや、此山水を望む、思念は同窓故舊の人に向はん、思ふて此山水に及ふ、連想は更らに、諸君を呼び來らん、登攀、溪飲、壑頭、達歡、銀膽、放吟、悠然出塵の快と婉なる、醜なる、肥大なる、瘦癯なる、辨訥なる、諧謔なる、木強なる、溫柔なると、多々相映宏來るべし、アービング曰く、

The fixed and unchanging features of the country also perpetuate the memory of the friend with whom we once enjoyed them; who was the companion of our most retired walks and gave animation to every country scene. His idea is associated with every charm of nature; We hear his voice in the echo which he once delighted to awaken; his spirit haunts the grove which he once frequented; we think of him in the wild upland solitude,

or amidst the pensive beauty of the valley.

彼れ實に、吾輩が將に受けんとする真情を發して餘なき、

縷々數千百言、懷往の二三を陳す、精思詳述、細大漏さざるが如きは、快味の寧ろ索然たるあり、異日、再び相携へ、相率ゆるの時、其聊か學院の名を顯はせ、此山水を跋渉す、歴々指顧の間、舊事舊情を呼ぶものあらん、

徒らに冗長にして意を失す、重ねて旭莊廉熱を去るの詩を假り來りて一誦せん、曰く、贈處元來無別語、莫教歲月等間過。

薇陽學院本日として第一回卒業證書授與之盛典を舉げらる不肖元謹て之を祝す夫れ本院設立以來幾多之困難に遭遇せしも幸に今日之隆盛を致し此嘉筵に遇ふ所以のものは天父之恩祐に因るといへども抑亦教員并有志者諸君之盡力と生徒諸士之忍耐とに依らすんはあらず不肖此佳報に接し往事を追懷して欣喜禁む能はずたゞ憾むらくは遠く山海を隔て諸君と共に此盛舉に列するを得ざるを依りて少か蕪辭を陳して祝意を表す願くは天父之恩寵長へに卒業生諸士と本院の上にあら

祝詞

嗚呼盛ナル哉本月本日操山綠蒼々タルノ下旭川水洋洋々タルノ邊吾カ校是ニ第一回卒業ノ式ヲ舉行セラル不肖生等亦此ノ式ニ列スルヲ得テ何ノ幸カ之レニ加ヘンヤ謹テ惟ミルニ本校明治廿二年ヲ以テ始メ教育界ニ一小溪流ト成ルヤ爾來漸ク水滴ヲ増シ時ニ或ハ涓涓タル小河ト成リ時ニ或ハ轟激タル急流ト變シ忽チ隱レテ地下ヲ奔リ忽チ現ハレテ又川ト成リ瀑布トナリ溪流ト變シ原野ヲ過キテ沼トナリ陷地ニ止テ湖水トナル然リ而シテ水勢益々強キヲ加ヘ漸ク進テ今日此ノ洋蒼タル大流ヲ成スニ至ル深ク教授ノ當時ニ適切ナルト攝理ノ深ク其内ニ存スルアルヲ感ゼズンバ非ザルナリ然リ而シテ諸子茲ニ五ヶ年ノ勤學ヲ卒ヘ目出度是ニ卒業ノ榮ヲ得ラル生等此ノ式ニ列シ心中密ニ羨情ニ堪ヘザルモノアリ然リ而シテ又此ノ榮ノ因テ來ル所ヲ思ヒ益々勉強ノ氣ニ勵マサル、ヲ感スルナリ今ヤ文運大ニ進ミ苟モ小學ノ課程ヲ卒ヘタルモノハ皆笈ヲ背テ郷里ヲ辞シ他日錦衣ヲ故園ニ翻ヘシテ父母喜ビ弟妹躍リ親戚和シテ近隣賀スルノ日ヲ得ント都ニ登テ各其志ス所ノ學ヲ修ム然リト雖モ學術ヲ研究シ技藝ヲ練磨スル固ヨリ一

んことを

明治二十七年六月二日

在平安城 小野田 元

明治廿七年六月二日舉行薇陽學院第一回卒業式于後樂園鶴鳴館予安侍席末不堪欣榮之情聊賦蕪辭以祝焉仙禽元是冲天物羽翼始成意氣豪想見九臯飛舞勢鶴鳴館裡一聲高

山陽女學校々長 望月興三郎

薇陽學院第一回卒業生

の心を想ひ祝して

種をろすときは花よど想ひしに

花咲き見れば實こそゆかしき

全

よじのぼる高根の路は遠くとも

登りて見れば今日ぞうれしき

全

文の舎よ學びの路もはかどりと

古郷に歸る今日のにしきは

旭涯主人

舉手一投足ノ勞ヲ以テ成ルモノニ非ラズ一朝一夕ノ閑ヲ以テ終ハルモノニ非ラザルナリ或ハ病魔ニ襲ハレ或ハ家事ニ支障ヲ生シ或ハ學資ニ欠乏ヲ來シ或ハ放蕩遊惰ノ爲メ中途ニシテ之レヲ廢シ胸算遠ヒ宿志蹉跎シテ惰々故園ニ歸ラザルヲ得ザルモノ蓋シ十二八九多年蝨雪ノ勞苦ヲシテ實力實巧ノ寶ニ化シ眞ニ國家ノ柱石トナリ終ハルモノ誠ニ曉星ト雖モ之レニ比シテ尙ホ多キヲ感スルナリ然リ而シテ諸子今學生中十二一二ノ内ニ加ハツテ茲ニ卒業ノ榮ヲ得ラル五年ノ日子短カキニ非ラザルナリ之レヲ月ニスレバ六十之レヲ日ニスレバ大凡ソ二千五春五秋時ニ或ハ炎熱髪ヲコガシ時ニ或ハ寒氣指ヲタラシ書齋書ヲ繕テ櫻花賞シニ暇ナク深夜燭ニ讀テ秋月見シニ閑ナク夜々泣々幸ニ學ヲ廢スルナク病魔ニ屈スルナク壯健勇強ノ身ヲ持チ目出度茲ニ五ヶ年ノ學ヲ卒ユ諸子ノ心中喜ビ察スルニアマリアルナリ

嗚呼卒業生諸君ヨ諸君ハ茲ニ此ノ校ヲ卒ヘ去テ尙ホ高尚ノ學ヲ修メントシ或ハ社會ノ實業ニ志ザル、ナラシ願クハ國家ノ急務ト吾ガ校ノ將來ヲ忘ル、ナク歩一歩進テ尙ホタユムナク目スル所ノ彼岸ニ達セラレンコトヲ然リ而シテ余ハ今後はレヨリ社會ノ實業ヲトラル、

The Chief Idea in Education.

A great deal is said and written at the present day about education. What is the chief idea in education? Before answering this question let us look at man a little and see what he is capable of.

Man has life, and as a living being he is capable of growth. If we watch this growth in a child we see it is not by additions on the outside, as in the case of the little animals called polyps, but it is a development of the original germs of power and capacity which are found in the child. This is the highest kind of growth. Here we watch a glimpse of the possibilities that are in man.

We are all endowed with powers, and no one need ever despair because he thinks he has not much strength in his powers, for since our powers and faculties have the capacity of growth we can put strength and power into them. As this is true every one ought to apply himself to the work of developing the power he has.

If a man wishes to develop his physical powers he must subdue his body to certain exercises which will accomplish this. Man cannot obtain physical power by any thing that is done for him, only by what he does himself. A man can only have a strong, vigorous body by personal exercise and exertion. For instance does a man wish to acquire power to strike a blow with a greater force than it is possible for him to do now, how shall he do it? Only in one way: let him use the power he now has in his arm and continue to use it, until he can strike with the required force. This is the law of development by use. From this it is plain that if one wishes to develop his physical power, he must put his physical organs at work. The same is true of mental powers, they must be put to work in order to develop them.

The abilities of men do not differ so much as is generally thought, but the manner of developing them differs. If a man would increase in power he must put mental powers to work on studies that will tax them to the utmost, remembering not to go beyond this point. In this way one will conquer one difficulty after another and find his power increasing. But some will say, this mean hard work. True, but real education is secured only by hard work. All students should understand that every difficulty encountered and overcome adds so much to his power as a man.

Some person have the idea that a man is educated because he has graduated from this or that college. But this is not necessarily so. We see some whose minds are well stored with knowledge, but they have little true education, because their knowledge does not bring out and develop the powers which are in them.

伊尹呂尚不助紂而助湯武者仁且智也隗囂不屬光武而屬公孫述者不仁且智也昔秦王猛事秦亦失其所屬矣當此時晉在江南縣々乎雖不絕如綫是正統國也然猛捨之反事僞秦者此亦不仁且智也然則隗囂之比歟曰否也是所謂擇良主而仕者也猶孟子遊齊梁乎齊梁亦非正統之

王猛論

霜山巖爾

澤谷辰二郎

在學生徒總代

敬白

ノ諸子ニ向テ一言ノ婆心ヲ呈セザルヲ得サルナリ余之レヲ先輩ニ聞ク社會ノ紛雜ハ學校ノ悠閑ナルニ相反スト教科書如何ニ困難ナルモ既ニ限アリ數學如何ニ面倒ナリト雖數冊ノ書ヲ了知スルニ至レリ然リ而シテ社會ノ事タル紛々冗々錯然トシテ秩序ノ有ルナク雜然トシテ區劃ノ存スルナク見ルニ際涯ナク問フニ師傅ナシト諸子請フ之レヲ心セヨ

年ニ前後アリト雖凡他日社會ノ上面ニ立ツ時ハ亦互ニ近ク肩ヲ接シ供ニ競争ノ場裡ニ馳スルアルベシ聊カ燕辭ヲ呈シ以テ祝詞ニ替フト自云

干時明治二十有七年六月二日

國也且死日符堅哭之曰天不欲使吾平一六合邪何奪吾景略速也是以可知平日之歡矣是豈不智而能如此哉亦何不仁哉豈隗囂之輩所及也然則伊呂之徒乎曰不如也夫湯武以至仁討至不仁故伊呂助之使爲王於天下也符堅則弑其君自立矣不及其湯武遠焉然則猛可比何人也哉曰可比於漢諸葛武侯乎夫武侯則蒙玄德草廬三顧之眷遇因爲之建天下三分之策故玄德之功業則武侯之功也玄德嘗曰孤有孔明猶魚有水也堅於王猛亦同矣一見而如舊舉國政委之以兵權任之自謂如玄德之於孔明々々則助後主數誠之後主不從而遂失其國猛亦遺言於堅曰晉雖僻處江南然正朔相承上下安和也臣沒之後願勿以晉爲圖然堅亦不從其言而遂討晉遂有肥水之大敗矣由是觀之猛之一言其明且智可知也豈可謂不智哉然則助其僞秦其仁何處在哉當晉之失政桓溫之輩陰蓄不臣之志亦郝超之徒勸溫行伊霍之事以立大威權故猛之事秦者欲鎮壓於堅之邪心也若使猛無事秦鎮壓其心則晉社稷豈岌々乎危矣此猛之不事晉而所以事秦也事秦而鎮壓於堅之邪心則能爲晉所以盡也夫可不謂仁且智哉然則猛仁且智也世之論猛者謂不仁且智者則不知猛之深意之論也語曰英雄而必知英雄之心豈不信哉猛何無意而背正統之晉而事僞秦乎此猛之最所注意也何空事秦哉噫

The question often asked is not, how much does a man know, but how much is he capable of. Any one would prefer to be the man who is the most, rather than the man who knows the most. The true idea of education is to have the faculties so developed and under command that they can be put to service. Any man is not educated because so much knowledge has been acquired, but because this knowledge having been acquired has brought out and trained and put to service his latent energies.

The question is not have you studied Algebra, Astronomy, Science or Languages; but if you have studied these branches of knowledge, what have they done for you! It is not, have you graduated from school, but if you have graduated, what has the course of study done for you? From this we see that the chief idea in education is not primarily to increase what a man knows, but to bring out and develop his latent powers so that they can be put to service, and be of use to others and himself.

Alice P. Adams.



將來に於ける吾人の一大任務

吉田水哉子

凡そ社會は原始單純なる民族の一小團より漸次進化して終に千種万態の複雑なる一大團を成す宇内國をなすもの幾千なりと雖も古今東西皆然りとす古代の人民個々孤獨の生活を營みしより進で分業の法漸く世に行はるゝに従ひ社會は益々相助の相關的となり百般の事業をして大に發達進化せしめ以て今日文化の燦爛たるを致せり許多の史家其著書に記すらく歴史は文明の變遷を叙するものなり曰く社會は常に變々乎として文明の域に進みつゝあり曰く何時代の文明曰く何世紀の開化と然り社會は實に暗黒朦朧の境界を脱して幾分か光明昭々の境域に進み來れり實に物質的文明は數千年の間滔々として流れ來り既に吾人が眼前に迫りぬ今試に歴史に就て之れが變遷進歩の狀を觀ん

史に據て之を觀るときは人類は斷斷なく物質的文明に進化し來りたるや毫も疑ふべからざるの事實にして野蠻的闘争の常に之れに隨伴せるも亦明かなるが如し否な現時の文明は寧ろ此野蠻的闘争の結果と言はざるべからざるなり野蠻的闘争とは何ぞ蓋し人民處々に割據して點々東西に部落をなせる往古の時代に在ては彼等

は互に争闘殺伐を事とし大は小を併せ強は弱を合し稍々勢力あるものは吞噬の勢を逞ふし以て各々小國の如きものを建て此數々の小國復た互に争ふて弱國亡び大國成り轉遷遷延て今日に至る而して尙ほ未だ止まざるなり見よ露鷲爪を磨し英獅牙を鳴らして鬪肉を分争し虎視眈々たるに非ずや是等は皆腕力の闘争なりと雖も古より今に至るまで闘争は單に腕力のみならず實は智力をも闘はし來れるなり然り而して此智力の闘争たる腕力の闘争に比して猶は一層の激しきものあり何となれば腕力の闘争は時に或は斷絶するところなきに非ずと雖も智力の闘争に至ては瞬間片時も止むとなければなり即ち工業上に商業上に百般の事業諸般の職業の上に於ける競争に在て常に最も鋭利なる武器たるなりこれが爲に幾千の同胞立並べころに斃れ幾百の兄弟忽ちにして饑餓社會愈々進めば智力の闘争愈々激烈なり文明開化と稱する今日に當て慘酷なる状態に陥る貧民何ぞ夫れ多きや吾人之を想ひ來る毎に毛髮悚然冷汗腋下に滴るを覺ふ

晉に之れのみならずるなり物質的文明の漸く歩を進むると共に道德愈々頹廢し人倫紊れ人心益々輕薄に赴き浮華に沈み日夜營々として私利を圖り致々として私

益を貪り天下擾々として名利の爲に埋没せられんとす
 るの傾向著しく志士爲に慨然として之を憂憤す然れど
 も昔時は則ち之に異なり人民概ね諄良朴訥にして謙讓
 の徳洽かりしも社會は依然矇昧無智にして尙は野蠻の
 境域を脱せざりしあり然らば文明といひ開化と云ふも
 の果して何を意味するか現時の如く夫れ不道德非倫理
 的のものなるか嗚呼何ぞ夫れ然らん古來文明に關して
 は多くの學者各々其議を異よし所論一ならずと雖も英
 國の某史家卓識之を解して曰く眞の文明なるものは徳
 力(無形)智力(有形)の相平均して毫も偏輕偏重なきも
 のありと蓋し余輩が心を得たるものなり若し其説にし
 て眞ならんか現今の文明は眞の文明にあらずして物質
 的なる語をもて之に冠する當を得たりといふべし然ら
 ば社會は果して吾人が所謂眞の文明に向て動きつゝあ
 るか請ふ暫らく眼を宇内の大勢に注げ

今や歐米諸國に在ては富者益々富に貧者愈々貧なり幾
 万の貧者が絞れる汗血は無慈悲にも眼に一点の涙だに
 なき殘戻なる富豪紳士の贅澤品奢侈物と化せらるゝな
 り山麓に河岸に湖邊に風光明媚の地に巍峨として聳ゆ
 る彼の宏麗なる金殿玉樓果して何者ぞ詮じ來れば皆是
 れ幾万の細民賤婦が流まゝ汗血の凝結せるものに外な

餓に瀕せんとせる輩の爲に深く哀まざるばあらざるな
 り然をとも幸にして現時我が邦に於ては貧富の懸隔未
 だ歐米の如く甚だしからず大に安すへきが如しと雖も
 若し從來の如く進み行かんは遂に小數の大富豪現は
 るゝと同時に幾十万の餓者を生じ彼の最も嫌忌すべき
 社會黨の如きものを現出するに至るやも未だ全く保す
 べからざるなり

嗚呼日本も亦終つて歐米の社會なる哉慷慨悲壯の士起て
 天下に絶叫する秋もあらんか最も忌むべき凄然たる社
 會黨怨焰を吐て呐喊を擾亂暴動の爆發する秋もあらん
 か嗚呼我等大和民族たるもの歐米に於ける慘憺たる活
 劇を目撃して心私かに猛省する所なかるべけんや貧者
 も人なり富者も人なり否な互に同胞兄弟たるなど吾人
 は有形無形共々圓滿完全に發達すべき眞の文明を理想
 とするに非ずや然るを尙は己が同胞兄弟の飢寒に迫り
 將さよ死に瀕せんとするとも恬然として坐視し毫も顧
 慮する所なく唯だ己れが偷安苟且安逸遊樂のみ是れ
 貪りて以て之を度外に措き自己唯だ憚々として私利を
 計り社會全般の幸福を問ふとなく不道德にも非倫理的
 にも之を冷然白眼視せんとせば吾人復た何をか謂はん
 是れ禽獸すら尙は耻づる所なればなり然れども余輩は

らざるなり此に於てか朝に孤兒飢に叫び夕に寡婦寒に
 泣くの慘狀を現出し終に社會黨の勃興を見るに至る誠
 に以て名なきに非る也これをしも文明に進みつゝありと
 いふを得べきか噫社會の此恐怖すべき潮流は終に得て
 挽回すべからざるか抑や社會は相關的なるが故に下に貧者
 すべからざるか抑や社會は相關的なるが故に下に貧者
 わつて能く勤勞するをくれば富家たるもの焉んぞ能く
 巨萬の財を積むを得んや貧者類に汗して富者の財始め
 て産す富者の貧者に負ふ極めて大なると謂つべし然ら
 ば則ち世をして益々澆季に赴かしむる果して誰の罪ぞ
 富者を外として將た之れを何處にか求めん原因已に斯
 の如く明かなり誰か挽回の策なしといふや

翻て我が國の社會を通觀すれば近來物質的の文明長足
 の進歩をなして年に月に愈々進み殆ど底止する所を知
 らず蒸氣機關電氣機等の工業其他諸般の事業の上は應
 用せられて鐵道東西南北に縱横し涼船風雨を冒して海
 上を馳せ電線は空中に蛛網を張り電燈會社建てらるを紡
 績會社設けらるゝ等枚擧げ違わらざるなり吾人之に依
 て廣大なる利便を得心潜かに之を喜ぶ而かも亦之に依
 て生活を失ひたる彼の幾數輓夫勞役者賤婦將た又曩き
 には沿道に小旅宿業を營みしも今は則ち職を失ひて飢

安危を同胞と共にし日本國をして永く東洋に赫灼たら
 しめんと欲するものなり予輩は貧民の良友たるを以て
 自ら任ずるものなり共同平和の主義を貫かんと欲する
 ものなり巍々たる芙蓉の嶽洋々たる大瀛の水此美なる
 天與の邦土と共に名聲を永遠に存せんと欲するものあ
 り大聖基督が最も注意し常に顧慮し玉ひしものは彼の
 最も憐むべき貧者賤婦なりしに非ずや是れ吾人の最も
 深く省みざるべからざる所なり物質的の文明を以て最終
 の理想となす者はイザ知らず苟くも吾人が所謂眞の文
 明に到達せんと欲する者は物質的の文明の進歩を促すと
 同時に精神的の文明をして之に並行せしめざるべからず
 感むべき細民をして快樂利益を富者と共にせしめざる
 べからず幾多の辛酸苦楚を嘗めて渴望の溼に達し上に
 暴戻の徒なく下に不良の輩なく貧富相提携して和氣霽
 々たるの曉を迎ふ豈人世の極大快事に非ずや陰雨未だ
 到らざるに先て牖戸を閉ち前車の覆るを見て之に鑑む
 は識者の須らく爲すべき所吾人今にして蹶起せずば
 後に至り噬臍するも及ばざるなり然らば則ち吾人今よ
 りして貧窮なる同胞の爲に健臂を奮ひ熱心に救済の法
 を講じ全力を盡して之を救助し之を慰藉し社會をして
 有形的の進歩あらしむると共に道德力の發達を期し所

謂眞の文明をして愈々益々吾人に接近せしめ永く光輝を蜻蜒洲裡より放たせむる是れ將來に於ける吾人が一大任務に非ずや

此重大なる任務を盡すの方法に至りては本篇の主眼とする所にあらざるが故に今詳かに之を論ずるに由なしと雖も先づ道徳の教を説て愚民を警醒し已れ實踐躬行を勉めて周圍の惡徒を感化し次に慈善病院を設けて貧困なる病者を治療し養育院を建て、鰥寡孤獨を養ひ貧民學校を興して貧民役夫の子弟に實業教育若くは普通教育を施し新事業を興して生活の道を給する等二三にして足らざるべしと雖も此等の事業を成す頗る難事に属す一朝一夕の勞豈能く之を成就し得んや加之我が國の人口は愈々増加するの傾向あれば海外移住も可ならん況んや西國南洋の諸島は寶庫を開て我を待つ有るをや然れども本邦北海の沃地未だ全く開拓の運に向はず徒らに猛熊野獸の巢窟たるを以て之を見れば第一着手として北海の鎖鑰を解くと夫を或は現今に於ける最良の手段にはあらざるか凡そ其執れる事業の何たるを問はず其職業の何たるに論なく將來に於て吾人青年たるもの奚んぞ此重大の任務此高尚なる事業と抛棄するとを是をなさん吁嗟今や十九世紀の舊劇場影漸く没せん

として其演劇者も亦方々に逝かんとし廿世紀の新舞臺は忍耐して吾人を待てり我が黨の諸士毅然として此新壇上に屹立せよ將來の日本社會を負擔之を斡旋調和するは眞個に吾人が大責任大任務にあらずや此れ等の任務たる實に重且つ大にして固より一舉手一投足の能く成就し得べき所にあらずと雖も亦袖手傍觀の時にもあらざるなり吾人今に當て膽略を鍊し氣力を鍛ひ以て此任に當らば活天活地何事か成らざらん吁嗟諸士此間充分に勢力を儲蓄して他日の資を供せよ諸士躍然として蹶起する所あれ奮然として決する所あれ余輩は世人が常に論ずるに巧にして實行に拙なるを憾む我が黨の諸士請ふ隗より始めよ請ふ隗より始めよ

第二の松下村塾

深峯生

國家紛亂風俗墮壞之上に立つの人自らの私意を逞ふせんことをのみ是れ欲し妄りに國憲を犯し朝政を乱れて毫も顧慮するの色なく奢侈放縱に至らざるなく賦歛重くして百姓塗炭に苦しみ陰雲黯鬱として天地に塞り魍魎颯天下を横行し賄賂公行し徳義地を拂ひ劍光閃々腥風吹き渡り國事日に益々非なるの時に際し出で、危機一髪の間迫まるの國家をして其の形勢を一變して光

明燦然たる國家たらしむるは凡俗の士能く及ぶ所るに非ずして必ずや邈然として凡俗の外に超軼して爛眼一瞥能く天下の形勢を解知し快刀一撃亂麻の社會を一掃し練々として餘裕あるの度胸を有する人物即ち世人が所謂英雄と稱するものの力に依らざるを得ざるなり而して彼の凡俗の士出で、紛亂の國家を改革せんとするは恰も彼の庸醫が當さに本復すべきの病者を療癒すの能はずして空しく黄泉に客たらしむるが如く國家をして空しく亡滅せしめ後人をして麥秀の詩を再吟せしむるに至る之れ又反して邈然として凡俗の外に超逸したる英傑の士出で、紛亂の國家を改革せんとするは恰も彼の良醫が千百の醫師匙を投じて茫然たるの病者を去て能く本復の樂あらしむるが如く將さに亡びんとするの國家をして光輝燦然たるの國家たらしむるに至る嗟呼國家紛亂の時勢は常に英雄を要して止まざるなり英雄出でずんば蒼生を如何せんの語は實に千古の名言と謂つべし試みに一二を舉げて以て之れを明さん。

英蘭スチュアート王朝の治世ゼームス第一世聖書に記して上に於て權を持てる者に人々皆従ふべしの句を奇妙に解して朕が王位に在るは天授の權なり故に國王は法律の制裁を受くるの理なしと考へ帝王神權説を稱へ

專政甚だし次王チャールス一世亦此の説を固執し政界暴横不法の處置甚だ多く天下之れが苦を叫ぶの時に當り彼の矮小醜顔の大英傑クロンウェール一たび手に唾して起ち遂に能くチャールス一世を斷頭臺上の露と消へしめ内國家を改革し外國威をして赫々たらしめたり此の時に當り眇々たる凡俗の士何んぞ能く出で、此の大業を成すを得ん必ずや邈然として凡俗の外に超逸したる大英傑クロンウェールの現出するあるありて而して能く此の大業を成すを得たるや瞭々として明らかなり。

佛王路易十四世の晩年左右嬖臣朝政を亂し無用の干戈較む所を知らず財政増々困難を極め國庫空乏し人民重斂に苦しみ日に益々騷擾し耕作を放棄して掠奪を事とし政府の信用地に墜ち遂に一大革命の舞臺を畫き出しラフハエツト起ちミラボー顯れロポスピール出で非常の紛擾を極め其結果遂に彼の無類の大英傑ナポレオン、ボナパルト蹶起して佛國革命の舞臺を舞ひ収め以後歐洲列國をして人民の自由を承認せしめたり此の時に當り眇々たる凡俗の士何んぞ能く出で、此の大業を成すを得ん必ずや邈然として凡俗の外に超軼したる大英傑ナポレオン、ボナパルトの現出するあるありて

而して能く此の大業を成すを得たるや瞭々として明らかなり。」

我國徳川の末世國事多端内相争ひ諸外將に我れに迫まらんとするの時に際し西郷起ち木戸頼れ大久保出で松下村塾の裡兀々として學びたる幾多有爲の青年傑士秋水を提げ腕を扼し蹶起して遂に能く徳川の天下を轉覆して維新の新天地を作り出だせり此の時に當り眇々たる凡俗の士何んぞ能く出で、此の大業を成すを得ん必ずや逸然として凡俗の外に超軼したるの大英傑西郷木戸大久保及び松下村塾の裡兀々として學びたる幾多有爲の青年傑士輩出するあるありて能く此大業を成すを得たるや瞭々として明らかなり。」

醜て今時我國の狀勢を案するに國政を管掌する彼の大臣宰相は各々其の私意を擅せんことを欲し自己の名利を得んと欲し國家なる觀念は殆んど彼れ等の眼中に存せざるが如く在野の名士も亦現時の内閣を轉覆して自ら代て國政を管掌す自黨の私意を擅まゝにせんことを欲し自らの名利を得んことを欲し國家なる觀念亦彼れ等の眼中に存せざるが如く在野の名士は各々黨を結びて或は自由黨と言ひ或は改進黨と言ひ或は吏黨と言ひ或は民黨と言ひ或は何或は何と言ひ名は政黨の如

くにして其の互に争ふ所眞に朋黨の争に外ならず國會創設以來解散をなすこと幾數なるを知らず百姓大に激昂して藩旗正さに天に翻り劍光閃々たらんと云身は天下の是非曲直を裁決する判官の位置に居りながら自ら國法を敗りて其の價値を去てヒタ一文の價なき迄でに下落せしめ身は頭髮を削りて法衣を纏ひ人民を去て善道に導く僧侶の位置に居りながら教則を破りて青樓に一夜の夢を結び身は廿世紀日本の繼續者を養成する教育家の位置に居りながら妄り青樓に登り酔て美人の膝に一夜を明し身は學生の位置に居りながら尺八を弄し手風琴を手に去時妓樓に登りて毫も顧慮するの色なく賄賂白晝に公行し道徳地を拂ひ純清皎潔の大道も遂に陰蔽せられ大義を亂り彝倫を破り陰雲黯と去て天地に滿ち魍魎魍魎天下を横行す外交の問題は日一日と其の困難を來す英露諸強國は指を染め涎を垂れて東洋の地を畧せんとし今や朝鮮東學黨の亂ありて東洋の戰雲將さに朝鮮の地に破裂せんとす日本現時の狀勢實に此くの如き此を以てか天下の百姓仰では天上に向ひて不世出の英傑顯れ來らんことを希望し俯しては地下に向ひ九泉の下巴に瞑目せるの故英雄を追想せり嗟呼實に今時の我國は大英雄を要するの時代なり。」

「或人記して曰く青燈一穗月西峰に没するに至る迄で志士某は談ぜり苟も勤王の心ある者朋黨の紛争を事として、宸襟を惱まし奉ることあらんや情感の爲め國家の大事を過まることあらんや私利の爲めに公事を害することあらんや偷安の爲めに大計を忘ることあらんや今の世の痛恨事は勤王心の缺乏なり民に勤王の心なき時代は足利の世の始なり足利の世の終りなり彦九郎出で山陽出で烈公出で東湖出で國臣雲濱南洲甲東松菊出で、明治の大御世は生まれり桃花流水去て跡なし後の山陽たり南洲たるものは誰れぞや元弘の世應仁の代たらしめざるものは誰れの責ぞ東湖何んの處みかある雲濱何の處にかある四海茫茫々尋ぬるに處なし唯湖畔の喬松凜乎霜雪に凋まず徐ろに春禽を養護すべきのみ喬松喬松之れ志士の自ら任ずべき所ならん耶」と。

英雄夫れ將た何處より湧出し來る乎彼の廣大壯麗の赤鍊瓦巍々として雲表に聳ゆる黝聖丹漆日光に映射して人目を眩するの諸官私立學校の内に學ぶの學生よりか將た破窓茅屋の裡に兀々として學ぶの學生よりか請ふ先づ兩個の眞髓を穿ち見よ一は之れ學ぶに充分の資あり一は之れ學ぶに充分の資なく學ぶに充分の資あるの結果は其の資金を投て青樓の懷を暖たからしめ學ぶ

に充分の資なきの結果は兀々として勉む青樓に資を散するの結果は社會の厄介物となり其の祖先をして長く地下に瞑目する能はざらしむるの人物となり兀々として學ぶの結果は一身を益し一家を益し一國を益し遂に天下有用の一大利器と成る然り而して假令幾多の廣大なる諸官私立學校の多數の學生悉く皆な此くの如くならずと雖も概して彼等學校の廣大にして萬事整頓せるを以て學術を磨くに勉めて其の人物を高むるを怠る之れに反して彼の破窓茅屋の裡に學べるの學生の其の校の不整頓不完全あるが爲め整頓したる教育を受くこと能はずと雖も其の人物を高むるに勉む人物を高むるに怠り只管學術を勉むるの結果は將に將たるが如き人物たるを得ざるに勉むるの結果は兵に將たるが如きの人物たるを得ざるに勉むるの結果は兵に將たるが如きの人物即ち大英雄たるを得るなり。」

此の故に余は概して巍然雲表に聳ゆる黝聖丹漆日光に映射して燦然たる彼の廣大なる諸官私立學校より英雄を出す能はずして反て眇々たる破窓茅屋の裡に學び活氣其の心中に鬱積去て光焰萬丈の勢を以て燃々上されるの資生能く回天の事業を成し亂麻の社會を一掃し紛亂

の國家を改革して秩序整然光輝燦然たるの社會及び國
家を作り出す大英雄たるを得ると言て毫も憚らざるな
り嗟呼今日破窓茅屋の裡に兀々として學べる我黨志士
よ失望する勿れ落膽する勿れ吾人の眼光を眩惑する廣
大なる諸官私立學校を見て羨慕する勿れ最後の勝利は
彼れの得る所に非ずして反て我れの手に歸せん。

東萊曰く秦百姓を弱めて而して匈奴を備ふ豈お匈奴の
勢強きを懼れて而して百姓何んぞ能く爲さんと謂ふに
非ず乎然れども秦を亡せる者は匈奴に非る也乃ち何ぞ
能く爲さん乎との百姓也云々。

眞なる哉氏の言哉余は廣大なる諸官私立學校の學生が
自ら誇稱して英雄と言ひ豪傑と稱し破窓茅屋の裡兀々
として學べるの學生を指して彼れ何んぞ能く爲さんと
言ふの語を暫々耳おす然れども彼の廣大なる諸官私立
學校に學べるの學生能く英雄を出し豪傑を出す能はず
して反て何んぞ能く爲さん乎との破窓茅屋の裡能く英
雄を出し豪傑を出し得るなり。

噫夫れ破窓茅屋何んぞ之れを侮慢すべけんや維新の大
業は彼の破窓茅屋の松下村塾の裡兀々として學びたる
學生與て大に力ありしに非ずや内日本現時の社會を改
革し外外交の問題を善く處置して國家をして富強なら

しむる第二の松下村塾は彼れも非ずして我にあり彦九
郎たり山陽たり烈公たり東湖たり國臣たり雲濱たり南
洲たり甲東たり松菊たるの人物彼れに出せずして反て
破窓茅屋の我れに出でん也哉。

薇陽學院諸子ニ望ム

南海 漁夫

學ブ者ノ耻ナリ、若シ薇陽學院ニ來リテ學業殊ニ英學
ノ進歩ニ緩漫遲々タルアラバ、學ブ者ノ辱ナリ、薇陽學
院ニアリテ品性ノ發達ニ成功ヲ得ル能ハザルアラバ、
此ノ德義ヲ重シシ自治ヲ尊ブ薇陽學院ニ於テ嘗テ聞ク
北海道海濱水山ノ打寄スル所昆布鮮魚積ンテ山ノ如ク
然カモ天與ノ大利ハ空シク曝ラシ去ラレテ遺憾限リナ
シト余ガ薇陽學院ニ來ツテ感シタル所少シク之ニ類ス
ル者アリ校舎器械ノ整頓シ在ラザルハ猶ヲ北海道開拓
ノ行届キ居ラサルカ如ク而カモ幾多特別ノ利便具ハリ
アルハ又實ニ彼レノ天然產物ニ富有ナルニ等シキ感ヲ
與ヘンズレバアラバ思フニ微々一私立學校ニ三人ノ外
國人ヲ雇ヒ居ル處ハ僅ニアツテ稀ニ見ル所ナラン蓋シ
經濟上大ナル關係アルヲ以テナリ見ヨ堂々タル學校數
百ノ生徒ニ當ツルニ僅々一人ノ外國人ヲ以テスルニア

本院設立始末

ラスヤ而シテ獨リ薇陽學院ハ僅々五十二滿タサル學生
ヲ教授スルニ若カク多數ノ外國人ヲ以テス然カモ懇切
丁寧殆ンド至ラサルナキヤ余數年京都同志社ニ遊ビ
シ者而シテ英學勉強ノ便宜ニ至テハ或ハ彼レ之レニ若
カザル者アルヲ覺フ怪ムナカレ本院ニアツテ二年若ク
ハ三年ノ勉強ノ后チ同志社ニ至ル者ガ能ク相當ノ級ニ
入ツテ敢テ下ラサルヲ
品性修養ノ点ニ至テハ殊更ラニ言フヲ待タズ蓋シ薇陽
學院ガ設立セラレタル主眼茲ニアルベケレバナリ其如
何ニ學生ト教師トノ間和氣洋々タルカ如何ニ學生ガ學
校ヲ愛スル精神ニ富ミ居ルカハ誇ルニ足ル事實ナリト
信ズ
今ヤ海外遊學中ノ校長安部磯雄氏ハ過ル日米國大學ヲ
卒業シテ歐洲漫遊ノ途ニアリ氏ガ有爲ノ英才ヲ以テソ
ノ養得タル抱負ヲ本院ニ實行スルノ日ハ實ニ一年ヲ
出テズシテ明年五月ノ頃ニアルナリ余何ソ薇陽學院
ノ爲ニ前途ノ好希望ヲ祝セサルヲ得ンヤ
若シ夫レ此ノ内ニアツテ茲ノ稀有ノ便宜ヲ利用スル能
ハサル者アラハ豈ニ惜シムヘキニアラスヤ抑又ソノ人
ノ大損耗大耻辱ニハ非ラスヤ願クハ勇然奮勵前途ノ好
準備ヲ全フセラレンコトヲ

明治の初年以來基督教の我邦に傳播せるや、信徒間布
教お熱心すると共に教育を重んずるの念夙に盛んに起
れり、加ふるに先設に係る二三の基督教主義學校の成
績既に稍見るべきものありたるより、順に教會内外人
士の注意を惹起し教育を重んずるの念倍々加はり、從
て學校の起るもの陸續として絶へず都會の地にして苟
も教會のある所、基督教主義男女學校或は夜學會等の
設けあらざるは殆んど之れなきに至れり、明治十四五
年の頃より廿二三年の頃に至る七八年間は實に基督教
主義學校興起の時期にてありしなり
大勢既に斯くの如くなれば、布教著しき我岡山に於て
、夙に男女學校の信徒有志者間に設立せらるるもの固
より常數のみ、左れば明治十二三年の頃岡山英語學舎
なるもの、我黨の手に設立せられぬ、さきと時運未だ
到らず、校規の更お見るべきものなくして五六ヶ年を
經過せり、而して明治十八年の頃、基督教徒中國青年
會なるもの設立せられしが、會運日に隆盛に赴くや、

事業を求むる事切にして、彼の岡山英語學會を譲り受け、青年會英語學校と改稱し、教授は専ら當時在留の宣教師ケレー、ペター(ペター氏は今尚ほ在留す)の兩氏に委嘱し、便宜晝夜一二時間宛、英語を教授し居りしが、當時條約改正談切りに起り、英語の流行するにつれ、本校の如き一時は八九十名の生徒を得るに至れり、學校とは云へ、其實純然たる英語會に過ぎずして、此の盛況を見る、當時誰か學校卒業の困難なる事お思ひ及ぶものあらんや、斯くて明治廿二年初夏、女學校新築事業も、粗は終末を告げしを以て、時機熟せりとなし、男子普通學校設立の議起り、是に於て岡山教會員小野田元(此頃伊之吉と稱す)氏、主として信徒有志者間に奔走の勞を執られ、二三の相談會の末、其議遂に纏まり、岡山教會牧師安部磯雄氏及小野田元氏へ教則編出及教師招聘の件を一任せらる、而して兩氏の斡旋により、全年九月、東中山下會堂の南隣に於て、岡山英語學校の開設を見るに至れり、設立者には九毛眞應氏を、校長には安部磯雄氏を推し、故平子貞誠、兒嶋龜士、霜山慈爾、ペター、ローランドの五氏を、教師も招聘し、會計の任務を中堀直秋氏に委託し、小野田元氏幹事の任を勤めらる、當時入學應募者五六十名ありし

も、試験嚴重にして僅かに其半數の者をして、入學するを得せしむ、要之岡山英語學會は一轉して青年會英語學校となり、再轉して岡山英語學校となりしもの、如しされど其再轉するや組織全く前二者と異にして、純然たる普通學校となりたるものなれば、本院の紀元實に此期を求むべし、設立の始末概略此の如し、

設立后五年間の概況

顧みるに本院設立の當時は、將に内信仰の動搖、外時勢の一變せんとする時期にてありしなり、左れば本院は斯く容易に、又好望を以て設立せられたるにも拘はらず、幾多の困難は端なく襲ひ來れり、生徒の入學するもの豫期の如く多からず、寄附金の集まるもの日に減少し、先づ會計上益々維持の困難を感するに至る、是に於て、全年十二月教師兒嶋氏を解雇して、經費を減し、漸く維持の策を立つ、開校僅かに數閱月にして早既に此事ある當時當局者の苦心果して如何ぞや、其後ローランド教師辭して鳥取に行かれ新に渡來せしホワイト氏、及びアダムス嬢、入つて教師となる、かくて一方に益々經費を節減し、他方には收入の増加せん事を勉めつゝ、万艱の裡に漸く二ヶ年を経過して、明治廿四年夏に至りしが、困難は又々襲ひ來れり、一

方には經費の不足積りて二百余圓の負債を生じ、他方には安部磯雄氏洋行せらるゝこととなり、平子氏も亦遊學せられんとす、當時若し兩氏にして全時に不在とならんか、誰ありて學校維持の任に當らんや、負債を殘して廢校の止む可らざるのみ、安部氏此に見る所あり平子氏を勧誘して、是非留校せられんことを求む、平子氏大に決する處あり之を諾せられ、設立以來常に黒幕の裡に盡力せられたる、小野田元氏と共謀して、校舎新築の議を發表し、廣く縣下有志者の贊助を求めらる、全年十二月、既に多少の賛成者を得、新築の事爲に其緒に就かんとして、平子氏病を以て歸國療養の止むべからざる不幸起る、嗚呼惜むべし是れ實に我校に執て一大瘡痍とはなりぬ、爾來時勢日に悪しく、又此議を發すべき時機なきに至る、平子氏既に去る、是に於て當時在郷の津田鍛雄氏入つて暫らく其後任とある、明治二十五年一月校名を今の名に改む、其實普通學校なるを英語學校と呼ぶの不當なるを以てなり、全年六月津田氏辭任せらる而して翌學年度の計畫をなすに當り、教授上教師招聘の必要迫るも、經濟上之を許すの餘力なく、進退維谷る所より、廢校の寧ろ得策なるを唱道するものありたるも、校運尙ほ盡さざるものありきに

や、有志諸氏の大に奮發せらる、ものありて、漸にして命脈を保つので謀成る、校舎を網の濱に移轉し、平子氏の歸校を乞ひ、山下虎之助氏を増聘するとなりぬ、斯くて廿五年九月は來をり、而して平子氏病痾未瘳を以て辭任せらる、加之小野田氏京都へ遊學せらるゝを以て、學校に執て一時大に當惑の態を呈せしが、幸に廣川友吉氏、平子氏の代として來校せられ、又山崎直氏教授囑托を諾られ、加ふるに傳道師守田幸吉郎氏、小野田氏に代つて有志者間に、斡旋の勞を執らるゝ事となり、希望を以て開校の運に至れり、網濱は地僻にして通學の不便より、多少就學生の減せん事を恐れしが、幸にして差したる影響もなく、常に卅名内外の就學生ありたり、此學年中教師ペター氏の厚意より、負債半額を償却して殘額凡て百圓となりぬ、此學年末、廣川氏辭任を申出てらる、安部氏の歸朝も今一年(其後延期となる)なるを以て、強ひて留任せられん事を求む、氏も亦愛校の念切にして之を諾せられたり、かくて翌學年度は前年全様にして繼續することなせり、廿六年九月より數ヶ月間、在孤兒院古藤重光氏に聖書科受持を委託す、明治廿七年一月山崎氏、自今専ら傳道に従事すべしとて、囑托を辭せらる、氏の本院を

難の如きは敢て辞する所にあらざるなり

第一回卒業式

本院設立茲に五星霜を経て、本年六月を以て初めて規定の學業を卒へし者、本科に二名、別科に二名を得たり、是に於て六月二日午後二時より後樂園鶴鳴館に於て、第一回卒業式を舉行せり、執行順序及卒業生姓名左の如し、

執行順序

- 一 奏樂
- 一 聖書朗讀
- 一 祈禱
- 一 勅語捧讀
- 一 唱歌(君か代)
- 一 報告
- 一 邦文(自尊ハ人類ニ於ケル) 湧川 幹
- 一 英文(圓滿ナル愛ト美トヲ) 前川啓太郎
- 一 演說(教育ヲ論ジテ薇陽學) 寺島 信夫
- 一 唱歌
- 一 演說
- 一 卒業証授與

石田祐安君

全 上

霜山 教師

大島正健君

助けられし事一學年と一期間、今氏を失ふ大に惜むべきものあり、而かも止むを得ざるなり、同月より日本基督教會教師石田祐安氏に、一二學科の教授を囑托す、數ヶ月にして、病を以て辞せらる、三月十三日、本院設立當初より兩三年間、本院の教師として盡力一方ならざりし平子貞誠氏、永眠の悲報に接し、親しく氏の薫陶を受けしもの、追悼の念に堪へざりし、五月下旬校舎を東山借樂園内へ移轉す、是れ從來の校舎狹隘を告ぐるに、地位邊鄙なるを以てなり、本學年末在籍生卅九名出席生卅四名なり嗚呼記して此に至り顧みれば本院設立當初より大小困難の手は常に本院の頭上に置かる、も一片の生命辛ふして今日に維持繼續するを得たるもの、如し蓋し近年私立學校の運命概して斯くの如しと雖ども亦本院の組織然らしむる所たるなからんや本院には獨力維持の任に當る校主あるに非ず少數の有力なる委員あるにあらす全く有志者協同の事業として維持し其間一二斡旋の勞に當る者あるのみ是れ本院が有志者一般の同情を買ふ所以にして亦本院の弱点たるなり今や校長安部磯雄氏の歸朝も近きお在り前途幾多の希望を有す幸に益々有志諸氏の助力を得て本院の基礎を固ふし彌々自由教育の任に當るを得ば大小困

來 賓

在校生總代

荒木時二郎

ペター教師

一 祈禱

以上 (各いろは順)

本科

前川啓太郎

寺島 信夫

別科

湧川 幹

荒木時二郎

合計四名

本日は豫南本縣書記官を始め、各官衙長官、諸學校々長、市内の重立ちたる實業家、新聞記者、及教會内の有志者、縣下各地の牧師傳道師等、凡百余名を案内しおさしか段々差間の廉を以て斷狀を送られ、不參の方多かりしは、大に遺憾とする所なり、式終りて后来賓一同をば、別席延養亭に招待し、茶菓を呈しなとして、全く散會せしは午後六時頃なりき。

薇陽學院概則

- 一 目的 本院ハ高等小學科ニ連接シテ高等普通學科ヲ授ケ直チニ實業ニ從事セント欲スル者若クハ尙ホ進ンテ高等專門ノ學校ニ入學セント欲スル者ニ必須ナル教育ヲナス
- 一 特色 本院ハ普通教育ニ於テ英漢數ノ三學科ヲ最モ重要ト認メテ之ニ最モ多クノ時間ヲ配當ス殊ニ英學科ニ至リテハ堪能ナル外國教師三名ヲ有セハ其進歩頗ル著シ是レ本院入學者獨得ノ便宜ト云フ可シ
- 一 教授法 本院ハ猥リニ夥多ノ學科ヲ同時ニ教授スルノ弊害多キヲ信シテ一時ニ須要ナル少數ノ課目ニ就テ教授シ豊カニ自修ノ時間ヲ與ヘ以テ開發主義ヲ實行シ學生ノ實力ヲ養ハント期ス
- 一 學科及ヒ學年學期 豫備科ヲ一ケ年トシ本科ヲ三ケ年トシ高等科ヲ二ケ年トス、學年ハ九月上旬ニ始リ翌年八月下旬ニ終ル、一學年ヲ分チテ三學期トナシ第一學期ハ九月上旬ヨリ十二月下旬ニ至リ第二學期ハ一月上旬ヨリ三月下旬

ニ至リ第三學期ハ四月上旬ヨリ六月下旬マテ
トス(但シ時宜ニヨリテハ或學年及學期ノ配
當ヲ變更スルコトアルベシ)

一入學書式

入學申込書

一私儀御院何科へ入學志願ニ付御試験被成下度此段申込候也

原籍身柄
年月日 姓 名
生年月日

薇陽學院
御中

學業履歷書

一何年何月ヨリ何年何月マテ何學校ニテ何學科ヲ修業シ又ハ卒業ス
一何年何月ヨリ何年何月マテ某ニ就キ何學科ヲ修ム
右之通御座候也

原籍身柄
年月日 姓 名
生年月日

保証狀

原籍身柄
姓 名
生年月日

右者入學御許可相成候ニ就テハ在學中當人ニ係ル一切ノ事件拙者共引受可申ハ勿論御規則堅ク爲相守可申候依テ証書如件

原籍身柄
(父兄) 保証人 何 某
原籍身柄
年月日 何 某
(可成岡山市
ニ住居ノ者)

薇陽學院御中

一休業

毎土曜日曜ノ兩日ハ休業トス(但シ土曜日ハ専ラ体育ノ爲メ日曜日ハ専ラ德育ノ爲メニ用井ンコトヲ獎勵ス)各大祭日ハ祝日トシテ休業ス(但シ紀元、天長ノ兩節ニハ本院公堂ニ於テ祝賀ノ式ヲ舉ク)其他夏季ニ二ヶ月冬期ニ二週間、春期ニ一週間ノ休業ヲナス

一入學生資格 豫備科ハ高等小學卒業ノ者ハ無試験

入學ヲ許ス其他ノ者ハ左ノ課目ニ就テ試験ヲ受クベシ

一漢學 國史略講讀 一數學 四則等
一作文 書牘文

本科へ入學セント欲スル者ハ左ノ課目ニ就テ試験ヲ受ベシ

一漢學 十八史略講讀 一英學 ナシヨナル第四讀本譯讀 一會話 發音及讀方
一數學 算數學全体及幾何代數初步
一作文 書牘及記事文

高等科へハ本科卒業ノ學力アル者ニ入學ヲ許ス

以上三科共直チニ受験ノ準備ナキ者ハ假入學ヲ許シ置キ學期試験ノ節正科へ編入スベシ

一束脩及授業料 新ニ本院へ入學セント欲スル者ハ束脩金壹圓ヲ收ムベシ授業料一ヶ月金六十錢毎月五日マテニ前納スベシ若シ十五日後ニ入學スル者ハ入學五日以内ニ該月ニ限り授業料半額ヲ納ムベシ

一撰科 據ナキ事情ニヨリ本院正科ヲ修ムル能ハス或學課ノミヲ修メ度キ者ニハ何科ニ拘ラズ撰科

生トシテ入學ヲ許シ該科相當ノ正科生ト共ニ
 業ヲ受ケシムベシ(但シ束脩金ハ正科生ト同
 様ニシテ授業料ハ一科ニ付キ金三十錢トス)
 一學費 本院在學費用ハ授業料食料雜費等凡ソ一ヶ月
 金四圓ヲ要スヘシ

徽陽學院學科課程表

豫 備 科 (二ヶ年)

科目	第一學期		第二學期		第三學期	
	目	時間週	目	時間週	目	時間週
倫理	聖書講義或ハ德育上ノ講話	一	全 上	一	全 上	一
漢學	日 本 外 史	五	十 八 史 略	五	全 上	五
英語	發音法、讀方、會話實習、習字	四	全 上	四	全 上	四
譯讀	ナショナル 第一、第二讀本	五	ナショナル 第二、第三讀本	五	ナショナル 第四讀本	五
數學	上野清著 近世算術上卷	五	上野清著 近世算術下卷	五	幾何、代數初步	五
地理	松島剛著 近世地理學 日本之部	二				
歷史			天野爲之著 日本歷史	二	全 上	二
作文	書 牘 文 一 記 事 文 一 叙 事 文 一					

本 科 (年ケ三)																
學年	科目	第一學期	時間	第二學期	時間	第三學期	時間	學年	科目	第一學期	時間	第二學期	時間	第三學期	時間	
第一學年	倫理	聖書又ハ講話	一	全	一	全	一	第二學年	倫理	聖書又ハ講話	一	全	一	全	一	
	國語	普通國文及日本文典	一	全	一	全	一		第三學年	國語	普通國文及日本文典	一	全	一	全	一
	漢文	外史及政記	三	全	三	全	三			漢文	東萊博議	三	全	三	全	三
英語	讀方會話	四	全	四	全	四	英語	讀方會話		四	全	四	全	四		
第二學年	譯讀	第五讀本	五	全	五	全	五	第三學年	譯讀	第五讀本	五	全	五	全	五	
	數學	スミス大代數書	五	全	五	全	五		數學	スミス大代數書	五	全	五	全	五	
	地理	松島剛著 萬國地理	二	全	二	全	二		地理	松島剛著 萬國地理	二	全	二	全	二	
第三學年	歷史	カッテンボス 米國史	五	全	五	全	五	高等科 (二ケ年)	歷史	カッテンボス 米國史	五	全	五	全	五	
	經濟								經濟							
	物理								物理							
第一學年	化學							第二學年	化學							
	生理								第三學年	生理						
	作文	論說文	一	全	一	全	一			作文	論說文章及英語論文	一				

學 年																
學年	科目	第一學期	時間	第二學期	時間	第三學期	時間	學年	科目	第一學期	時間	第二學期	時間	第三學期	時間	
第一學年	倫理	聖書又ハ講話	一	全	一	全	一	第二學年	倫理	聖書又ハ講話	一	全	一	全	一	
	國語	文章軌範	三	全	三	全	三		國語	文章軌範	三	全	三	全	三	
	漢文	讀方修辭法	四	全	四	全	四		漢文	讀方修辭法	四	全	四	全	四	
第二學年	英語	讀方修辭法	四	全	四	全	四	第三學年	英語	讀方修辭法	四	全	四	全	四	
	譯讀	三角術	五	全	五	全	五		譯讀	三角術	五	全	五	全	五	
	數學	三角術	五	全	五	全	五		數學	三角術	五	全	五	全	五	
第三學年	歷史	文明史	五	全	五	全	五	高等科 (二ケ年)	歷史	文明史	五	全	五	全	五	
	經濟								經濟							
	物理								物理							
第一學年	化學							第二學年	化學							
	生理								第三學年	生理						
	作文	論說文	一	全	一	全	一			作文	論說文章及英語論文	一				

高等科 (二ケ年)

第一學年

英文學

アービング小品文、マコーレー論文、カーライル論文、エマルソン論文

漢文學

大學、中庸、論語、韓非子

哲學

論理學、心理學、代議政体

科學

天文學、地質學

作文

演說及文章、英語論文

學年

第二學年

英文學

ミルトン、セーキスヒール詩文及ヒ英文學史

漢文學

老子、莊子、詩經、書經

哲學

倫理學、社會學、第一原理、國家學

科學

作文

演說文章及英語論文

學年

第三學年

英文學

本院へ入學志願者ハ何時ニテモ本院アレ假編入ヲ許シ置キ學期試驗ノ節其成績ニヨリ相當ノ正科ヘ編入スヘシ◎本院ニ就テ詳細承知シ度方ハ本院アレ

明治廿七年八月廿四日印刷
明治廿七年八月三十日發行

岡山縣岡山市門田屋敷百十九番邸

編輯兼發行者 山下虎之助

岡山縣岡山市西中山下百四十二番邸

印刷者 富田忠雄

岡山縣岡山市門田屋敷二百三番邸

印刷所 岡山孤兒院活版部

